

FUJITSU Software

ServerView Infrastructure Manager V1.2

ユーザーマニュアル（プロファイル管理機能編）

著作権および商標

© Copyright Fujitsu Limited 2014

All rights reserved

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Hyper-V、Active Directory、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware, Inc の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の会社名と各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

目次

第1章	はじめに	1
1.1	対象読者	1
1.2	表記規則	1
1.3	用語	1
1.4	プロファイル管理機能概要	2
1.5	プロファイル	3
1.6	システム構成／ネットワーク構成	4
1.7	操作概要	5
1.8	事前準備	7
1.9	使用上の注意事項	7
第2章	機能	9
2.1	サポート機器	9
2.2	サポート機能	9
2.2.1	検出	10
2.2.2	機器登録	11
2.2.3	搭載位置指定	12
2.2.4	ファームウェア／BIOSアップデート	13
2.2.5	BIOS設定	14
2.2.6	BMC (iRMC) 設定	14
2.2.7	OSインストール	14
2.2.8	仮想管理ソフトへのサーバ登録	16
2.2.9	ETERNUSアレイ構築	16
2.2.10	サーバ保守後の操作	17
2.2.11	機器情報の確認	17
2.2.12	識別LED制御	18
2.3	処理時間の目安	18
2.4	関連ソフトウェアとの連携	19
第3章	事前準備	20
3.1	ネットワーク設計	20
3.2	DHCP設定／PXE設定	23
3.3	機器名／プロファイル名のルール	23
3.4	プロファイル適用動作設定	24
3.5	仮想管理ソフト設定	25

3.6	ServerView関連ファイルのインポート	25
3.7	ファームウェア/BIOSデータのインポート	26
3.8	OSインストール媒体のインポート	26
3.9	メンテナンス支援機能で使用する媒体のインポート	27
第4章	操作方法	28
4.1	画面構成	28
4.1.1	ノードリスト画面	28
4.1.2	プロファイル画面	30
4.1.3	イベント履歴画面	30
4.1.4	セットアップ画面	31
4.2	画面更新操作	32
4.3	機器アイコン	32
4.4	機器検出	33
4.4.1	サーバの自動検出	33
4.4.2	サーバの手動検出	33
4.4.3	ブレードシャーシ (MMB) の手動検出	34
4.4.4	ストレージETERNUSの手動検出	35
4.5	機器登録	36
4.5.1	登録	36
4.5.2	登録解除	37
4.6	プロファイル操作	38
4.6.1	サーバ用HWプロファイルの新規作成	38
4.6.2	OSプロファイルの新規作成	40
4.6.3	ストレージ用HWプロファイルの新規作成	41
4.6.4	プロファイルの編集	43
4.6.5	プロファイルの流用作成	43
4.6.6	プロファイルの削除	43
4.6.7	プロファイルの名前変更	44
4.6.8	プリセットプロファイル	44
4.7	プロファイル適用	45
4.7.1	プロファイルの適用	45
4.7.2	プロファイルの適用中止	47
4.7.3	プロファイルの再適用	47
4.7.4	プロファイルの解除	48
4.8	機器情報表示	49
4.8.1	プロパティ画面の表示	49
4.8.2	Web画面接続	49
4.8.3	識別LED操作	49
4.8.4	プロファイル参照	49
4.8.5	VIOMプロファイル参照	50
4.8.6	プロファイル適用履歴表示	50
4.8.7	ローカルノートの編集	50

4.8.8	仮想管理ソフトへの登録	50
4.9	サーバ保守後操作	50
4.10	機器のグループ管理	52
4.10.1	グループの作成	52
4.10.2	グループへの機器登録	53
4.10.3	所属グループの移動	54
4.10.4	グループからの削除	54
4.10.5	グループ名の変更	54
4.10.6	グループへ移動	54
4.10.7	グループへコピー	55
4.10.8	グループを削除	55
4.11	プロファイルのグループ管理	56
4.11.1	グループの作成	56
4.11.2	グループへのプロファイル登録	57
4.11.3	所属グループの移動	57
4.11.4	グループからの削除	57
4.11.5	グループ名の変更	58
4.11.6	グループへ移動	58
4.11.7	グループへコピー	58
4.11.8	グループを削除	59
4.12	イベント履歴表示	59
4.13	設定	59
4.13.1	DHCP設定	59
4.13.2	プロファイル適用動作設定	61
4.13.3	各種DVDのデータインポート	63
4.13.4	仮想管理ソフト設定	65
第5章	補足情報	68
5.1	プロファイル操作に関して	68
5.2	登録済み機器情報の変更に関して	68
5.2.1	HWプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更	68
5.2.2	OSプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更	69
5.2.3	機器名の変更	69
5.2.4	iRMC固定IPアドレスの変更	69
5.2.5	位置情報の変更	69
5.2.6	コミュニティ名の変更	69
5.3	リポジトリフォルダの変更	69
付録 A	サーバ用HWプロファイルの設定項目	71
付録 B	サーバ用OSプロファイルの設定項目	76

付録 C	ストレージ用HWプロファイルの設定項目	80
付録 D	トラブルシューティング	82

図表目次

図目次

サーバへのプロファイル適用例	4
セットアップ作業のながれ	6
プロパティ画面表示例	18
IPアドレス範囲の定義例	22
そのほかの定義例	23

表目次

vCenterの設定	66
SCVMMの設定	66

第1章 はじめに

本書では、FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager（以下ISM）のプロファイル管理機能の機能、および操作方法などを説明しています。

ここでは、プロファイル管理機能を利用するにあたって理解しておいていただきたい内容を説明します。初めてプロファイル管理機能を利用される方は、事前にお読みいただくことをお勧めします。

ISM全般の機能や操作に関しては下記マニュアルを参照してください。

- FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル(共通編) (C122-0001)

また、必要に応じて下記の関連マニュアルを参照してください。

- FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル（ファシリティ管理機能編）(C122-0002)
- FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル（メンテナンス支援機能編）(C122-0004)

1.1 対象読者

本書は、ハードウェアとソフトウェアについて十分な知識を持っているシステム管理者、ネットワーク管理者、ファシリティ管理者およびサービス専門家を対象としています。

1.2 表記規則

本書では、次の表記を使用しています。

アイコン	内容
	重要な情報とヒントを示す。
	怪我、データ損失、装置破損に至る可能性のある危険性を示す。

1.3 用語

本書で使用している主な略語および用語は次のとおりです。

略語／用語	意味
ISM	ServerView Infrastructure Manager（本ソフトウェア）。
BMC	Baseboard Management Controller。サーバのベースボード上に搭載され、ボードやファンなどを管理する機構。
iRMC	Remote Management Controller。BMC機能にリモート操作機能などを追加した制御機構。世代によってiRMC S3、iRMC S4のように名称が区別されることがある。
SVS	ServerView Suite。FUJITSU Software ServerViewシリーズのソフトウェア製品群。
SVOM	ServerView Operations Manager。
VIOM	ServerView Virtual-IO Manager。
MMB	ブレードシャーシに搭載するマネジメントブレード。
ETERNUS	富士通製ストレージ装置。
vCenter	VMware社が提供する仮想環境管理ソフトウェア。
SCVMM	System Center Virtual Machine Manager。Microsoft社が提供する仮想環境管理ソフトウェア。
Management LAN	iRMC用のLAN。PRIMERGYでは通常のLANコネクタとは別に専用コネクタが用意されている。
管理サーバ	ISMがインストールされているサーバを指す。
対象機器	プロファイル管理機能で操作する機器を指す。
Profile Manager	プロファイル管理機能または操作するためのGUI画面を指す。

1.4 プロファイル管理機能概要

プロファイル管理機能は、サーバやストレージなどの各種機器のセットアップ作業を自動的に実施する機能です。機器の一覧表示や過去の作業履歴、設定内容を参照することでセットアップ後の機器管理も容易になります。

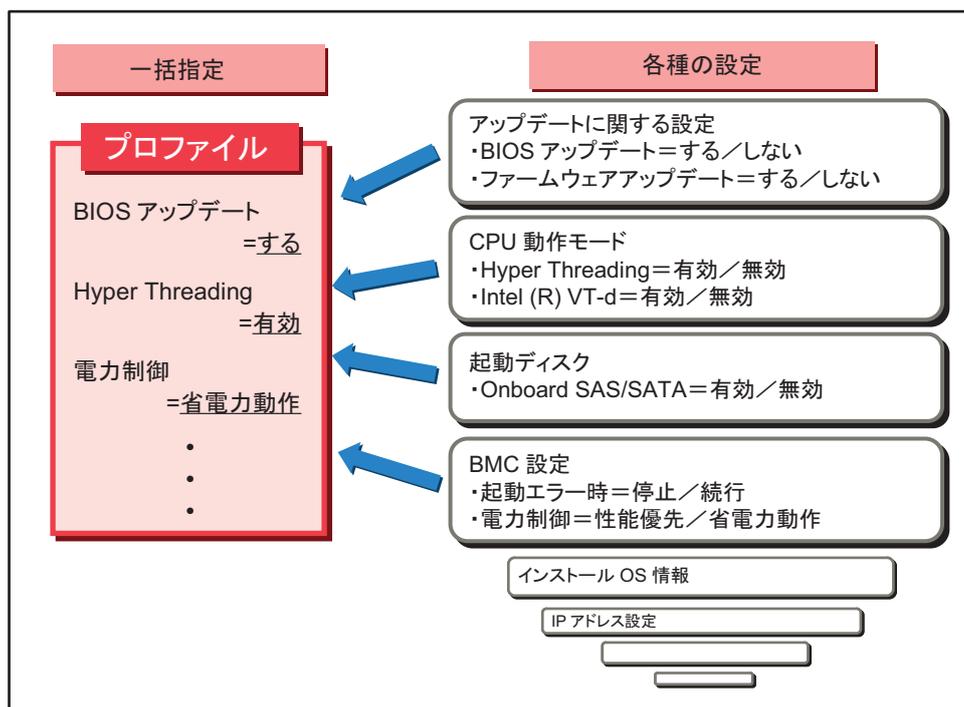
例えば、次の作業については機器を直接操作することなく、ISMの画面操作だけで行うことができます。

- サーバのBIOS設定、iRMC設定の変更
- サーバ、内蔵アレイコントローラーのファームウェア／BIOSの更新
- OS、Hypervisorのインストール
- アレイ構築

上記作業内容をあらかじめプロファイルとして記述しておき、このプロファイルを各機器に適用することで指定した作業を行います。

プロファイルとは、各種設定を一括指定したものです。多数のサーバを同一内容でセットアップする場合には、1つのプロファイルを複数のサーバに対して適用することにより、作業の効率化が図れます。

セットアップ後のファームウェアアップデート、または各種設定変更などは、変更したプロファイルを再度各機器に適用することにより、一括で実施できます。



1.5 プロファイル

プロファイル管理機能では、ハードウェア設定やファームウェアアップデートの有無、OSインストール時のパラメータなどを「プロファイル」と呼ぶ各種定義の集合体に記述しておき、そのプロファイルを実際の機器に対して割り付けることで機器の状態を一括変更します。

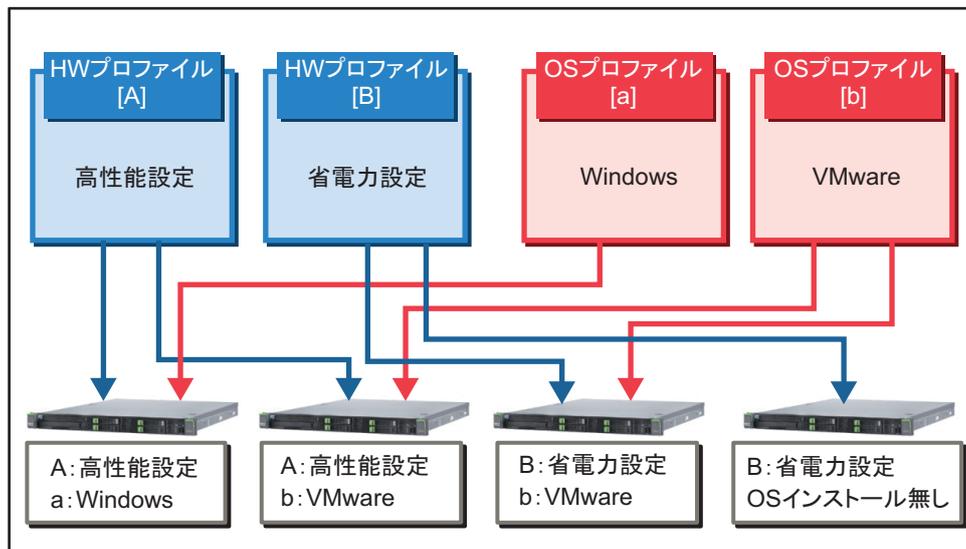
プロファイルは任意の数だけ作成でき、それぞれ個別の名前を付けて管理します。対象機器1台ごとに異なるプロファイルを適用したり、1個のプロファイルを複数の対象機器に適用したりできます。

対象がサーバの場合、ハードウェア関連の指定を行うHWプロファイル、およびOSインストールに関する指定を行うOSプロファイルの2種類によって操作します。OSプロファイルを使わずにハードウェアのみを管理することもできます。ただし、OSプロファイルのみの適用はできません。

ストレージ (ETERNUS) に対しては、HWプロファイルのみを利用します。プロファイルの内容は、サーバ用のHWプロファイルとは異なります。

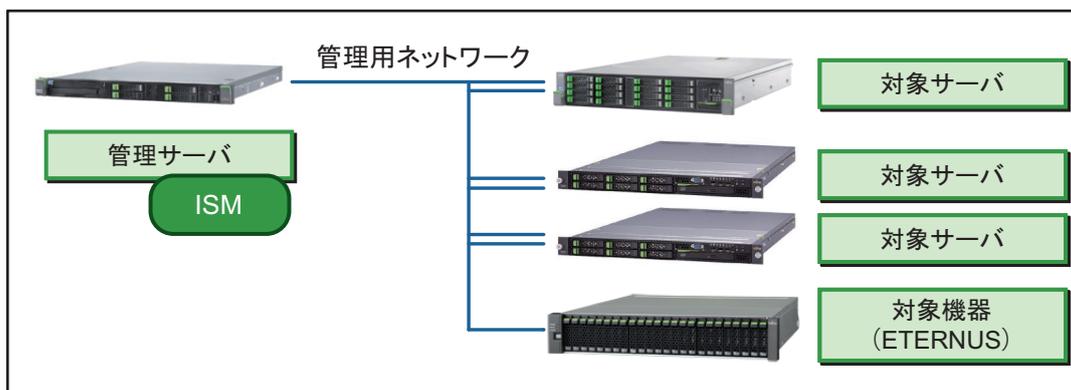
次のようにHWプロファイルおよびOSプロファイルは、任意の組み合わせで対象サーバに適用できます。

サーバへのプロフィール適用例



1.6 システム構成／ネットワーク構成

ISMは、原則的に操作対象となる機器とは別に用意したサーバ上で動作します。本書では操作される側の機器を「対象機器」（サーバの場合は「対象サーバ」と呼び、本ソフトウェアが動作しているサーバを「管理サーバ」と呼びます。多くの場合は1台の管理サーバから多数の対象サーバに設定を行うことになります。両サーバは、管理用のLANで接続します。



プロフィール管理機能は、サーバに搭載されているiRMCとの通信、またはオンボードLANからのPXE bootによってサーバを制御します。サーバについては、iRMC用のLANポート、およびオンボードのLANポートの両方を管理用LANに接続します。サーバブレードの場合、シャーシに搭載されているMMB上のポートと、LANスイッチブレード（またはLANパススルーブレード）のオンボードLANポートを管理用LANに接続します。その他の機器については、以下を参照してください。

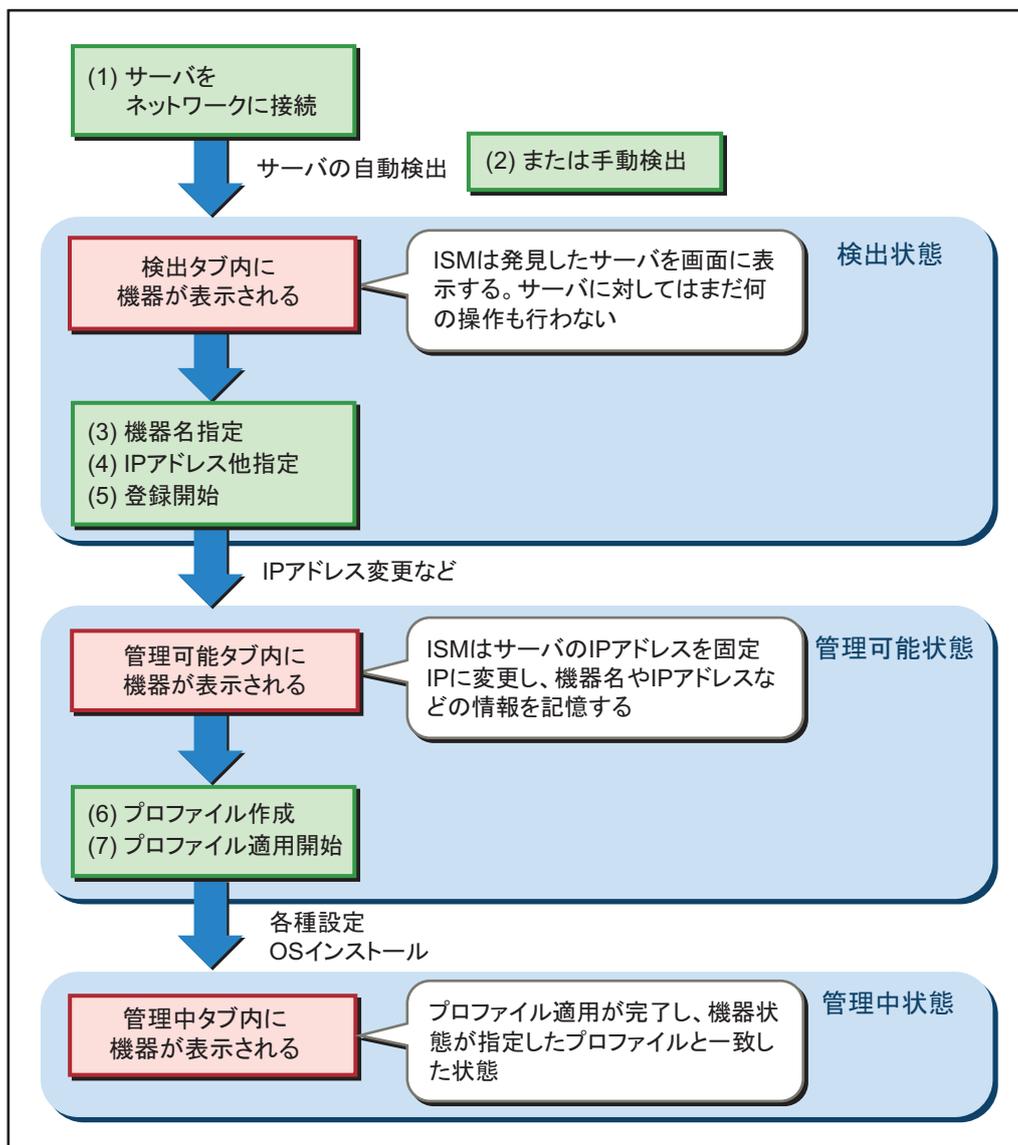
対象機器	必要なネットワーク接続	必要なネットワーク設定
ラックサーバ	iRMC用Management LAN	iRMCのIPアドレス設定（DHCPまたは適切な固定IPアドレス）（*1）
	オンボードLANの1番目のポート	PXE bootの有効化（*1）
サーバブレード	MMBのManagement LAN	iRMCのIPアドレス設定（DHCPまたは適切な固定IPアドレス）（*1）
	サーバブレードのオンボードLANに接続されたLANコネクシオンブレード	PXE bootの有効化（*1）
ブレードシャーシ MMB	MMBのManagement LAN	MMB用の適切な固定IPアドレス SNMP設定（MIB読み込み可能なコミュニティ設定）（*1）
ETERNUS	マスタCMのMNTポート	適切な固定IPアドレス SNMP設定（MIB読み込み可能なコミュニティ設定）（*1）

*1: VLANタグは使用できません。

1.7 操作概要

ここでは、新規導入サーバに対して、ハードウェア設定およびOSインストールを行う手順を説明します。対象機器の状態は、検出状態、管理可能状態、管理中状態の3段階に変化します。

セットアップ作業のながれ



図中 (1) から (7) の作業内容は次のとおりです。

- (1) サーバのiRMC、オンボードそれぞれのLANポートにLANケーブルを接続します（サーバブレードの場合はMMBおよびコネクションブレードへの接続となります）。また、電源ケーブルを接続します。サーバの電源はオフにしたままです。
- (2) iRMCのIPアドレスが固定IPアドレスに設定されている場合は、[Profile Manager] 画面から手動検出を行って、サーバを検出します。
- (3) サーバをISMIに登録するさいに、ユニークな機器名を付けます。
- (4) iRMCのIPアドレスがDHCPに設定されている場合は、固定IPアドレスを指定します。また、ラック内の搭載位置や機器へのメモ書きなどの情報も、任意で指定可能です。
- (5) 必要な情報を指定し、登録します。
- (6) サーバに適用するHWプロファイルおよびOSプロファイルを作成します。
- (7) サーバに対して適用するプロファイル名を指定し、プロファイル適用開始を指示します。プロファイル内容により、数分から90分程度の作業時間が必要です。

① 情報

プロファイルは、機器が存在しない状態で、事前に作成しておくこともできます。

1.8 事前準備

プロファイル管理機能を利用するさいに、各種事前準備が必要となります。詳細は、「[第3章 事前準備](#)」を参照してください。

1.9 使用上の注意事項

プロファイル管理機能を使用するさいに注意していただきたい内容を記載します。

(1) エラー発生時の対処

本ソフトウェアを操作中にエラーが発生した場合、または期待する動作結果にならなかった場合は、画面
上のメッセージやアイコンなどでその内容を確認し、トラブルシューティングを参照して適切な対処を
行ってください。詳細は、「[付録D トラブルシューティング](#)」を参照してください。

多数の対象機器を一度に操作する場合などは、画面上の表示だけで状態を把握することが難しいことがあ
ります。この場合、動作履歴を参照することで状態を把握しやすくなります。履歴の参照方法は、「[4.1.3
イベント履歴画面](#)」を参照してください。

(2) DHCPまたはPXEを利用するソフトウェアとの競合

管理ネットワーク内で、ServerView Installation MangerやSystemcastWizardなどのDHCPやPXEを利用す
るソフトウェアを利用する場合、DHCPまたはPXEの競合により正しく動作しないことがあります。

(3) 管理サーバ外のDHCPサーバまたはPXEサーバを利用する場合

ISMは管理サーバ上で動作するDHCPサーバとPXEサーバを使います。これらを準備できない場合、次の
制約が発生します。

- DHCPサーバ（サービス）

Windows標準のDHCP機能を管理サーバ上で有効にできない場合は、新規サーバの自動検出機能は動作
しない。サーバの検出は手動で行う。

ネットワーク上に有効なDHCPサーバが存在しない場合は、OSプロファイルは使用できない。

また、HWプロファイル中のFW/BIOSアップデートとBIOS時刻設定は使用できない。プロファイル適
用を実行するとエラー終了する。

- PXEサーバ（サービス）

管理サーバ上でISMにバンドルされたPXEサービスが動作できない場合は、OSプロファイルは使用で
きない。また、HWプロファイル中のFW/BIOSアップデートとBIOS時刻設定は使用できない。プロファ
イル適用を実行するとエラー終了する。

(4) 複数のWebブラウザからの同時にログイン

ISMは複数のWebブラウザから同時にログインし、それぞれから操作することができます。ただし、異な

る操作を同時に行うと、動作の競合により予期しない動作を引き起こすことがあります。複数ログインでの利用は推奨しません。複数ログイン状態で利用する場合は、本ソフトウェアの動作を十分理解したうえで利用するか、参照のみに限定してください。

(5) OSインストールでのIPアドレス設定

OSプロファイルを利用してOSをインストールするさい、LANポート設定はオンボードLANの最初のポートのみ設定可能です。複数のLANポートが存在する場合は、OSインストール完了後にOS上から設定してください。

(6) iRMCへのログインアカウントの操作

サーバを登録すると、iRMCに「SVISMadmin」という名前で、アカウントがID番号16に作成されます。このアカウントはISMが管理に使用するため削除しないでください。サーバの登録を解除するとアカウントは削除されます。

HWプロファイル内で任意のアカウントを作成することも可能です。この場合はアカウントがID番号15に作成され、作成したアカウントはHWプロファイルの取り外しや変更で削除されます。

また、HWプロファイルでiRMCのデフォルトアカウント（admin）を無効化することもできます。この場合、アカウントの削除ではないため、同一名称（admin）のアカウントを別途作成することはできません。

(7) 利用可能文字

機器名やコンピュータ名などの文字列入力で使用可能な文字は、原則として半角英数、ハイフン (-)、アンダースコア (_) です。その他の記号類は使用できません。

パスワードやDNSなどでは、その他の文字も入力可能となっている場合がありますが、全角文字や一部の記号が使用できない場合があります（バックslash、¥、ダブルクォーテーションほか）。

入力時にエラーメッセージが表示された場合は、画面表示に従って変更してください。例えば、OSプロファイルの作成時などに目的の記号が利用できない場合は、OSをインストールしたあとで別途手作業で変更してください。

第2章 機能

ここでは、プロファイル管理のサポート対象機器、サポート機能、および処理時間などを説明します。

2.1 サポート機器

ここでは、プロファイル管理のサポート対象機器を説明します。
ブレードシャーシとMMBは一体で扱われるため、画面上では「シャーシ/MMB」のように表示される場合があります。

機器種類	主なサポート機能
ラックサーバ PRIMERGY RXシリーズ サーバブレード PRIMERGY BXシリーズ	- 自動/手動検出、IPアドレス設定、登録 - ファームウェア/BIOSアップデート - BIOS/BMC設定 - OSインストール - iRMC Webインターフェースの呼び出し
ブレードシャーシ (MMB)	- 手動検出、登録 - MMB Webユーザーインターフェースの呼び出し
ストレージ ETERNUSシリーズ	- 手動検出、登録 - アレイ/ボリューム構築 - Web GUIの呼び出し

① 情報

サポート製品や対応機能等の最新情報については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。
<http://software.fujitsu.com/jp/serveviewism/environment/>

2.2 サポート機能

プロファイル管理でサポートする機能を示します。
それぞれの詳細は、「2.2.1 検出」以降を参照してください。また、画面操作は「第4章 操作方法」を参照してください。

項	機能	概要
1	検出 (自動検出、手動検出)	ネットワーク接続された機器を検出して画面上に情報を表示する。 DHCP設定されたサーバは自動的に検出されるが、サーバ以外の機器や固定IPアドレスのサーバについては任意のIPアドレスを指定して手動検出する。

項	機能	概要
2	機器登録	プロファイル管理を行う前に、検出した機器1台ごとに名称を付けて登録し、管理可能な状態とする。登録後の機器操作のために固定IPアドレスが必要なため、DHCP設定のサーバに対しては固定IPアドレスの割当ても同時に行う。
3	プロファイル作成	機器に適用する各種の設定をプロファイルに記述する。ハードウェア環境の設定を行うHWプロファイルとOSインストール設定を記述したOSプロファイルの2種類を作成する。あらかじめ用意されているプロファイルを流用して新しいプロファイルを作成することも可能。
4	プロファイル適用	プロファイルの内容に従って指定した機器上でハードウェア設定、OSインストール、またはアレイ構築などが行われる。
5	Web画面呼び出し (iRMC Webインターフェース、MMB Web ユーザーインターフェースなど)	Webブラウザを起動し、対象機器のWebベース設定画面を呼び出す。 サーバを直接操作するためにビデオリダイレクション機能を起動する場合などにも本機能を利用できる。
6	機器情報、操作履歴の表示	プロファイル管理機能全体の操作ログを参照できる。また、特定機器の情報や操作履歴も表示する。

2.2.1 検出

プロファイル管理に登録されていない新しい機器を検出します。検出方法には、自動検出および手動検出の2通りがあります。

– 自動検出

サーバのみ利用可能な機能。サーバをネットワークおよび電源に接続し、BMC (iRMC) のIPアドレスがDHCPによって割り当てられたことを本ソフトウェアが自動的に認識して機器を検出する。

– 手動検出

対象となる機器が固定IPアドレスの場合、画面上でIPアドレスを入力して機器を見つける方法。対象機器には事前に固定IPアドレスを設定しておく。

機器が検出されると、モデル名やシリアル番号などの機器情報を参照できます。目的の機器が正しく検出されたことを確認し、続けて登録処理を行います。詳細は、「[4.4 機器検出](#)」を参照してください。

① 情報

- 自動検出を利用するさいは、事前に本ソフトウェア上のDHCP設定画面で必要な設定をしてください。詳細は、「[4.13.1 DHCP設定](#)」を参照してください。
- ブレードシャーシ (MMB) またはストレージETERNUSを検出する時は、事前に各機器を直接操作して適切なIPアドレスとSNMPコミュニティを設定してください。
- ブレードシャーシのSNMPコミュニティは機器登録後も情報の取得に利用しますので、検出後は変更しないでください。
- サーバの自動検出および手動検出にはデフォルトのiRMCアカウント (admin) が使用されます。アカウントまたはパスワードがデフォルト設定から変更されている場合は検出できません。
- ストレージETERNUSの検出時には、デフォルトのログインアカウント (root) が使用されます。アカウントが変更されている場合、検出できません。

2.2.2 機器登録

プロフィール管理を利用するときは最初に機器を登録しておきます。このとき、各機器を識別するために、機器名を設定します。また、自動検出した機器には固定IPアドレスに変更する処理も行われます。

① 情報

- 機器名は他の機器名と重ならないよう、1台ごと異なる名前にしてください。原則として登録時に付けた名前は変更できません。
- プロファイル管理に登録された機器がファシリティ管理に未登録であった場合、ファシリティ管理にも機器情報が登録されます。ただし、「2.2.3 搭載位置指定」の位置指定が行われた場合に限りです。
- サーバブレードを登録する場合は、事前にMMBを登録するか、サーバブレードとMMBを同時に登録してください。
- 登録完了時に、自動的にServerView Operations Managerにも機器名が登録されます。

登録時に指定する項目を示します。

機器名とIPアドレスは、登録時の必須入力項目です。その他については、登録後に任意のタイミングで指定できます。

項目	指定後の変更	指定方法、入力可能文字など	備考
機器名 (必須)	不可	文字列を入力。 半角英数字およびハイフン (-)、アンダースコア (_) 64文字以内	機器を識別するための名称で、ISM内で他の機器と重複しない名称を付ける。 ServerView Operations Managerにも本名称で登録される。 検出時点で自動的に機器名が生成されるが、登録前に任意の名称に変更可能。
IPアドレス (必須)	不可	自動検出時のみ一覧から選択または直接入力	サーバを自動検出した場合のみ指定する。 登録時にiRMC LANを固定IPに変更する。検出時点で自動的にIPアドレスが割り当てられるが、登録前であれば画面上からIPアドレスを変更することも可能。 指定可能なIPアドレスは、DHCP設定画面で固定IP範囲として設定した範囲となる。
搭載先ラック名	可	別途指定済みのラック名一覧から選択	「2.2.3 搭載位置指定」を参照。
搭載先ラック内位置 (Unit位置)	可	グラフィカル画面上で指定	「2.2.3 搭載位置指定」を参照。
占有ユニット数	可	プルダウンから選択	対象機器に応じてユニット数が自動的に入力される。変更が必要な場合には、プルダウンから適切な値に変更する。
ポーリング間隔	可	60~3600の数値	ファシリティ管理で使用される。詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)』(C122-0002)を参照。
プロダクト名	可	半角英数字およびハイフン (-)、アンダースコア (_) 20文字以内	ファシリティ管理で使用される。詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)』(C122-0002)を参照。

項目	指定後の変更	指定方法、入力可能文字など	備考
SNMPコミュニティ	可	半角英数字およびハイフン (-)、アンダースコア (_) 64文字以内	ファシリティ管理で使用される。詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)』 (C122-0002) を参照。
アプリケーションURL	可	128文字以内	ファシリティ管理で使用される。詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)』 (C122-0002) を参照。
ローカルノート	可	文字列を入力。 全角、半角英数字およびハイフン (-)、アンダースコア (_) 64文字以内	メモ用途として自由に書き込める領域。機器の構成や購入日などを自由に書き込む。書き込んだ内容は、プロパティ画面で参照/変更可能。ファシリティ管理とも共有される。

2.2.3 搭載位置指定

各機器の搭載先のラック名やラック内での高さ情報は、主にファシリティ管理で使用されます。ラックの状態をグラフィカルに表示したGUIから各種操作を実行できるようになります。詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)』 (C122-0002) を参照してください。

プロファイル管理機能では、ノードリスト (搭載位置順) のツリー構成に反映されます。搭載位置情報を正しく登録することで、特定ラック内の機器だけを簡単に一覧表示できます。

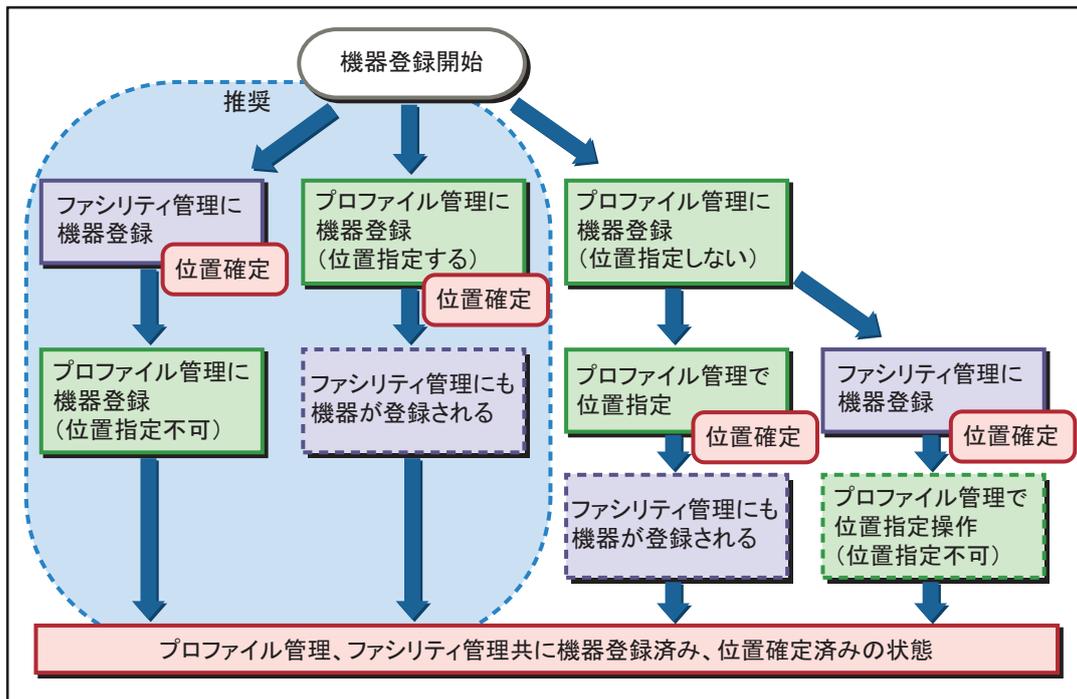
① 情報

- 登録時は位置未定で登録しておき、あとから位置を指定することもできます。位置が指定されるまでは、ノードリスト (搭載位置順) のツリー内では、「位置不明ノード」の配下に機器が表示されます。
- 登録先のラックは、[Profile Manager] 画面で新規作成ができません。事前にファシリティ管理で定義してください。
- サーバブレードの場合、位置を指定できません。搭載先のブレードシャーシの位置とサーバブレードの-slot位置に従って自動的に確定します。

プロファイル管理およびファシリティ管理の機器登録のながれを示します。

プロファイル管理とファシリティ管理の位置情報は連動しており、操作順序によって位置が確定するタイミングが異なります。図中の「推奨」で示した手順を推奨します。

詳細は、「4.5 機器登録」を参照してください。



2.2.4 ファームウェア/BIOSアップデート

アップデートが可能なファームウェアおよびBIOSは次のとおりです。

- サーバ本体（システムボード）のBIOS
- サーバ本体（システムボード）のiRMCファームウェア
- サーバに搭載されるアレイコントローラカードのファームウェア

上記は個々にアップデートすることはできません（例えばBIOSのみアップデートは不可）。

HWプロフィール中にアップデートを指示すると、プロフィール適用処理中にすべてのコンポーネントに対してアップデートが行われます。

⚠ 注意

- ファームウェア/BIOSアップデート中に電源を切断しないでください。
- ファームウェア/BIOSをアップデートするさいは、事前に適用するファームウェアのリリースノートや添付ドキュメントを確認してください。

ℹ 情報

- この機能は、メンテナンス支援機能のファームウェアアップデートとは異なる機能です。主にサーバのセットアップと同時にファームウェアを最新版にアップデートする場合に利用します。
- アップデートに使用するファームウェア/BIOSは、事前にインポート画面から管理サーバのハードディスク上に取り込んでおいてください。ファームウェア/BIOSの版数を指定する機能はありません。インポートされた中から最新版数のデータが使われます。詳細は、「[3.6 ServerView関連ファイルのインポート](#)」を参照してください。
- ファームウェア/BIOSアップデートは、サーバの電源が投入されている状態では実行できません。サーバの電源をオフ（電源ケーブルは接続）にしてから実行してください。
- ファームウェア/BIOSは、新しい版数に更新することはできますが、古い版数にすることはできま

せん。

運用開始後のメンテナンス目的など、HWプロファイル適用時にファームウェア/BIOSアップデート済みのサーバに対して、さらに新しい版数にアップデートする場合は次の手順でも実行できます。

1. 適用するファームウェア/BIOSを準備します。
アップデートDVDの媒体またはisoイメージファイルを用意して、データインポートします。
2. ノードリスト画面の [管理中] タブからアップデートするサーバを左クリックします。
機器プロパティ画面が表示されます。
3. 画面下部のプロファイル名指定エリア内の [FW] のチェックボックスをオンにします。
4. [保存] をクリックし、機器プロパティ画面を閉じます。
5. [プロファイル変更] ボタンをクリックします。

2.2.5 BIOS設定

サーバのBIOS動作に関する設定を変更します。サーバ上でBIOSセットアップユーティリティを利用して設定する作業と同じです。

HWプロファイルに設定内容を記述して、プロファイルを適用することで設定が変更されます。

① 情報

- 本機能では、BIOSセットアップユーティリティ内で設定可能なすべての項目を設定することはできません。使用頻度の高い設定のみ設定をサポートします。設定可能な項目は、「[付録 A サーバ用 HWプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。
- BIOS設定はサーバの電源が投入されている状態では実行できません。サーバの電源をオフ（電源ケーブルは接続）にしてから実行してください。

2.2.6 BMC (iRMC) 設定

サーバのiRMC動作に関する設定を変更します。リモートマネジメントコントローラーのWebインターフェースを利用して設定する作業と同等です。

HWプロファイルに設定内容を記述して、プロファイルを適用することで設定が変更されます。

① 情報

- 本機能では、Webインターフェース内で設定可能なすべての項目を設定することはできません。使用頻度が高い項目のみ設定をサポートします。設定可能な項目は、「[付録 A サーバ用HWプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。
- BMC (iRMC) 設定はサーバの電源が投入されている状態では実行できません。サーバの電源をオフ（電源ケーブルは接続）にしてから実行してください。

2.2.7 OSインストール

サーバに対して次のOSをインストールします。ただし、インストール先サーバがサポートしているOSのみインストール可能です。

OSプロファイルでOS種類や各種設定を記述して、プロファイルを適用することにより設定が変更されます。

- Windows Server 2012 R2 Standard (Full/Core)

- Windows Server 2012 R2 Datacenter (Full/Core)
- Windows Server 2012 Standard (Full/Core)
- Windows Server 2012 Datacenter (Full/Core)
- VMware ESXi 5.5 / Update1
- VMware ESXi 5.1 Update1 / Update2

① 情報

サポートOSに関する最新の情報は弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。
<http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/environment/>

⚠ 注意

OSインストールを行うと、インストール先に指定したディスク内のデータはすべて消失します。必要なデータは事前にバックアップしてください。

Windowsのインストールは、[設定] 画面で停止した状態で終了します。ビデオリダイレクションや実機画面を利用してライセンス条項を確認後、同意の操作を行ってください。残りのインストール作業が実行されます。



① 情報

- OSプロファイルにはインストール先ディスクの指定、内蔵アレイコントローラーへのアレイ構築指示、パーティションサイズ、ネットワーク設定なども同時に実行できます。例えば、ネットワークポートのIPアドレス、サーバ名、ドメイン名、パスワードなどを指定します。設定可能な項目は、「付録 B サーバ用OSプロファイルの設定項目」を参照してください。
- SAN bootなどを利用する場合は、あらかじめアダプターやインストール先ディスクの設定を完了させておいてください。
- OS上のネットワークポート設定は、オンボードLANの最初の1ポートのみ指定可能です。通常この

ポートは管理LANとして使用します。その他ポートについては、OSインストール後にOS上から別途設定してください。

- OSインストールはサーバの電源が投入されている状態では実行できません。サーバの電源をオフ（電源ケーブルは接続）にしてから実行してください。

OSプロファイルを利用してインストールを行ったサーバに対して、同一条件でOSを再インストールする場合は、下記手順でも実行できます。

⚠ 注意

インストール先に指定したディスク内のデータはすべて消失します。必要なデータは事前にバックアップしてください。

1. ノードリスト画面の [管理中] タブから再インストールするサーバを左クリックします。
機器プロパティ画面が表示されます。
2. [OS] のチェックボックスをオンにします。
3. [保存] をクリックし、機器プロパティ画面を閉じます。
4. [プロファイル変更] ボタンをクリックします。

2.2.8 仮想管理ソフトへのサーバ登録

プロファイル管理機能でVMwareをインストールしたサーバをvCenterにホスト登録できます。また、プロファイル管理機能でWindowsをインストールしたサーバをSCVMMにホスト登録もできます。追加操作は次の2種類から選択できます。事前にSetup画面から[仮想管理ソフト設定]および登録先のソフトウェア上で必要な設定を完了させておいてください。

- OSインストール完了後に自動的に登録

VMwareのインストールが正常終了したあと、続けてホスト登録を行います。本機能は、Windowsに対して利用できません。

- OSインストール済みのサーバを任意のタイミングで登録

任意のサーバのプロパティ画面から、[仮想管理ソフト登録] ボタンをクリックして登録を開始します。登録先の情報などは、事前に[設定画面]に入力しておきます。

ℹ 情報

- OSプロファイルでOSをインストールし、かつOSプロファイルで管理LANに固定IPアドレスが指定されていることが登録の条件となります。
- vCenterへの登録の場合、VLAN IDを指定しないでください。
- SCVMMへの登録には、対象サーバがActive Directoryに参加している必要があります。10分程度要する場合があります。また、仮想管理ソフト設定画面以外にも必要な準備があります。詳細は、「[3.5 仮想管理ソフト設定](#)」を参照してください。

2.2.9 ETERNUSアレイ構築

ストレージ装置ETERNUS上で、RAIDおよびボリュームを作成できます。

ℹ 情報

- RAID構築やホットスペアに組み込まれていないハードディスクが搭載されている場合のみ、アレイ

の構築が可能です。構築済みのアレイ構成を削除して再構築する場合は、ETERNUSのWeb GUIなどを使用して構成を削除してください。

- ボリュームは、作成したRAIDに対して最大容量で1個作成されます。
- RAIDおよびボリュームに付けられる名前は自動的に決定されます。変更が必要な場合は、Web GUIなどを使用して変更してください。
- ETERNUSの電源はオンにした状態で実行してください。

2.2.10 サーバ保守後の操作

ハードウェア故障が原因で対象サーバ内の部品やサーバ本体を交換した場合は、交換内容に応じて機器の実際の状態とプロファイル管理との整合性を取る作業が必要になります。

サーバ保守後に行う主な作業は次のとおりです。

- 交換によって変化したハードウェア情報の取り込み
例：機器のシリアル番号やiRMC LANのMACアドレスが変化した場合に登録情報を更新
- 交換後のサーバに対し、以前のプロファイル内容の再適用
例：システムボードの交換によってBIOS設定がデフォルト値に戻った場合のHWプロファイル再適用、またはハードディスクの交換によってデータが消失した場合のOS再インストール

上記の作業を行うには、保守後に対象サーバの[保守管理（ノード交換）]ボタンをクリックし、適切な処理を行います。詳細は、「[4.9 サーバ保守後操作](#)」を参照してください。

情報

- サーバ保守後の操作はプロファイル適用済みのサーバが対象となります。プロファイル適用前の機器に対して保守を行う場合は、ノード登録解除を実行してから保守を行い、保守後に再度ノード登録してください。
- シャーシ（MMB）およびストレージについては、保守時にProfile Manager上での操作は不要です。

2.2.11 機器情報の確認

機器の詳細情報や操作履歴などを画面に表示して確認できます。

ノードツリーまたはノードリスト画面の機器一覧表上で対象機器を右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]を実行します。

プロパティ画面表示例



2.2.12 識別LED制御

サーバ本体には、前面のオペレーションパネル上や背面に青色のIDランプ（識別LED）が実装されています。本LEDを点灯／消灯させたり、逆にサーバ側でLEDを点灯したあとソフトウェア画面上でLED状態を確認したりすることで、実際の機器と画面上での機器との対応の確認が簡単にできます。LED制御はサーバのプロパティ画面から行います。

① 情報

ブレードシャーシおよびETERNUSに対して本機能は利用できません。

2.3 処理時間の目安

プロファイル管理の各処理時間の目安を次に示します。処理時間に画面操作などの作業時間は含まれません。処理時間はハードウェア構成、ソフトウェア構成、ネットワーク状態、同時に処理する台数などにより増減します。

処理内容	処理時間	備考
自動検出	～2分	サーバのネットワーク接続および電源接続から、検出までの時間。
手動検出	～2分	手動検出開始から検出までの時間。
機器登録、登録解除	～2分	
HWプロファイル適用（FWアップデート）	10～30分	
HWプロファイル適用（BIOS設定）	2～5分	
HWプロファイル適用（iRMC設定）	1～3分	
HWプロファイル適用（ETERNUS）	1～3分	

処理内容	処理時間	備考
OSプロファイル適用 (Windows)	30～90分	インストール先ドライブ性能やネットワーク状態、機器構成によっては、大幅に増加する可能性がある。
OSプロファイル適用 (VMware)	20～40分	仮想管理ソフトへの登録は含まない。 インストール先ドライブ性能やネットワーク状態、機器構成によっては、大幅に増加する可能性がある。
vCenterへの登録	1～3分	
SCVMMへの登録	2～15分	
サーバの保守後操作	—	再適用するプロファイルに依存。
SVS DVD (ServerView Suite DVD)のインポート	～10分	コピー元ドライブ性能によっては、大幅に増加する可能性がある。
アップデートDVDのインポート	～20分	コピー元ドライブ性能によっては、大幅に増加する可能性がある。
WindowsインストールDVDのインポート	～20分	コピー元ドライブ性能によっては、大幅に増加する可能性がある。
VMwareインストールDVDのインポート	～10分	コピー元ドライブ性能によっては、大幅に増加する可能性がある。
Cloud Ready Blocks Update Supplementのインポート	～20分	コピー元ドライブ性能によっては、大幅に増加する可能性がある。
FC Switchblade Firmware DVDのインポート	～10分	コピー元ドライブ性能によっては、大幅に増加する可能性がある。

2.4 関連ソフトウェアとの連携

プロファイル管理は、ServerView Suite製品や他のアプリケーションと連携して動作する機能があります。なお、次の機能は連携先ソフトウェアの仕様変更などにより利用できなくなることがありますのでご注意ください。

- vCenter Server

OSプロファイルの適用によってVMwareをインストールしたサーバは、vCenterの指定したフォルダまたはクラスタに登録できます。

- System Center Virtual Machine Manager (SCVMM)

OSプロファイルの適用によってWindowsをインストールしたサーバは、SCVMMの指定したフォルダに登録できます。

- ServerView Operations Manager (SVOM)

サーバ/MMBの登録時、自動的にSVOMに登録されます。オブジェクトの種類は、サーバがBMC、MMBがBlade Serverとなります。

- ServerView Virtual-IO Manager (VIOM)

サーバに適用済みのVIOMプロファイルは、Profile Managerの画面上で確認できます。プロファイルの適用/取り外しには未対応です。

第3章 事前準備

ここでは、プロファイル管理の各機能を使用する前の準備を説明します。

項	準備内容	必要な場面	操作概要
1	ネットワーク接続およびIPアドレス範囲の設計	常時	- ネットワークの接続形態を検討 - IPアドレスの利用範囲を検討。固定IP部、DHCP部などを設計 - GUI上でIPアドレス範囲を指定
2	DHCPサーバ、PXEサーバの準備	サーバ自動検出、OSインストール利用時	- WindowsのDHCP機能を有効化 - PXEサービスをインストール
3	機器名、プロファイル名のルール検討	常時	- 機器の名称やプロファイル名のルールをあらかじめ決めておく（推奨）
4	プロファイル適用動作設定	必須	- GUI上で作業フォルダなどを指定
5	仮想管理ソフト登録設定	仮想管理ソフトへサーバを登録する場合	- GUI上で登録先サーバ、アカウント、フォルダなどを指定 - SCVMM Consoleのインストール
6	ServerView関連ファイルのインポート	必須	- ServerView Suite DVD (Tools)およびアップデートDVDからファイルの取り込み
7	ファーム/BIOSデータのインポート	アップデートを行う場合	- アップデートDVDからデータの取り込み
8	OSインストール媒体のインポート	OSインストールを行う場合	- ServerView Suite DVD (Tools)からデータの取り込み - OSインストールメディアの取り込み
9	メンテナンス支援機能で使用する媒体のインポート	メンテナンス支援機能を使用する場合	- Cloud Ready Blocks Update Supplementの取り込み - FC Switchblade Firmware DVDの取り込み

3.1 ネットワーク設計

プロファイル管理機能は、管理用のネットワークを利用して対象機器を制御します。対象機器によって、以下のように接続します。

- サーバの場合：以下の両方に管理用として接続する
 - iRMC Management LANポート
 - オンボードLANポート
- ブレードシャーシの場合：以下の両方に接続する
 - iRMC用としてMMBの制御ポート
 - サーバのオンボード用としてコネクシオンブレード（サーバブレードのオンボードLANに接続されたもの）
- MMB、ETERNUSの場合：管理用のポートにのみ接続する

iRMC用とオンボード用のそれぞれについて、DHCP動作に利用する動的なIPアドレス範囲と固定IPア

ドレスとして利用する範囲の2種で合計4種をあらかじめ定義し、プロファイル管理のDHCP設定画面で指定しておきます。

操作方法の詳細は、「4.13.1 DHCP設定」を参照してください。

情報

業務に利用するネットワークは、これらの管理用ネットワークとは別に用意することを推奨します。

DHCP設定画面の構成を「IPアドレス範囲の定義例」に示します。図内A~Dに4種のIPアドレス範囲を設定します。加えてゲートウェイ、DNSサーバ、DNSドメイン名を入力します。DNSサーバとDNSドメイン名の入力は任意です。そのほかは必須入力項目です。

The screenshot shows a DHCP configuration form with the following fields and values:

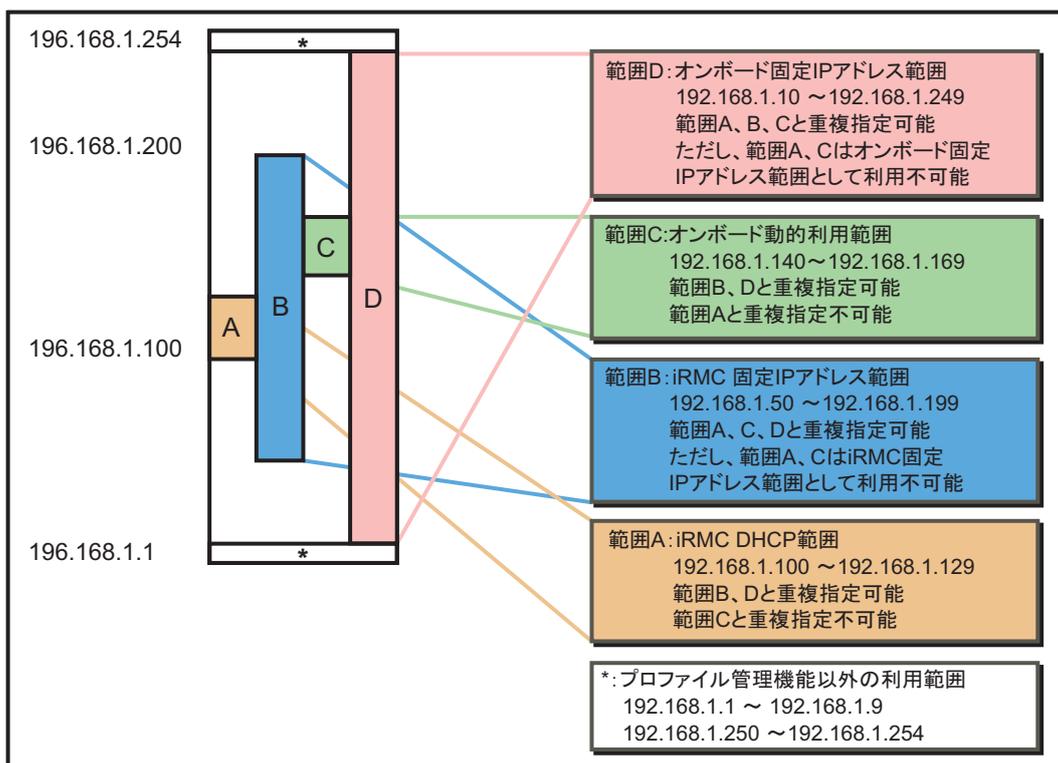
- スコープ名: Scope1
- サブネットマスク: 255.255.255.0
- 貸出IPアドレス範囲: 192.168.1.240 ~ 192.168.1.249 (Callout A)
- ネットワーク番号: 192.168.1.0
- ゲートウェイ: 192.168.1.1
- BMC(iRMC)固定IPアドレス範囲: 192.168.1.2 ~ 192.168.1.100 (Callout B)
- サーバ管理LAN固定IPアドレス範囲: 192.168.1.101 ~ 192.168.1.199 (Callout D)
- システム管理IPアドレス範囲: 192.168.1.230 ~ 192.168.1.239 (Callout C)
- DNSサーバ: (empty)
- DNSドメイン名: (empty)

範囲	設定項目名	利用元	利用形態	用途
A	貸出IPアドレス範囲	iRMC	DHCP	新しく接続されたサーバのiRMCがDHCPによってIPアドレスの貸し出しを要求したさいに、DHCPサーバによって貸し出されるIPアドレスの範囲を設定する。
B	BMC (iRMC) 固定IPアドレス範囲	iRMC	固定	サーバ登録時に画面から指定するiRMC用の固定IPアドレスの範囲を指定する。手動検出を行う場合は、手作業でこの範囲のIPアドレスをiRMCに設定しておく。
C	システム管理IPアドレス範囲	オンボード	動的使用 (DHCP)	プロファイル適用時のPXEブートのために一時的にオンボードLANに割り当てる範囲を設定しておく。OSプロファイル適用時にオンボードLANのIPアドレスが指定されている場合は、ここで指定した範囲ではなくプロファイルに記載されたIPアドレスが使用される。プロファイルの適用は最大で10台まで同時に実施できる。しかし、本設定範囲が小さい場合はPXE用IPアドレスが不足して、同時実行数が制限される場合がある。
D	サーバ管理LAN固定IPアドレス範囲	オンボード	固定	OSインストール後にオンボードLAN (管理LAN) で使用されるIPアドレスの範囲を設定する。

A～Dの各設定項目のIPアドレス範囲は重複しても設定できます。ただし、範囲Aと範囲Cとを重複させることはできません。

IPアドレス範囲を重複して設定した場合、利用者の責任において重複したIPアドレスを正しく扱ってください。例えば「IPアドレス範囲の定義例」の設定例では192.168.1.100は範囲A、B、Dに含まれますが、範囲A（DHCP）に利用されるため、範囲B（iRMCの固定IPアドレス）および範囲D（オンボードの固定IPアドレス）として指定すると正しく動作しない場合があります。

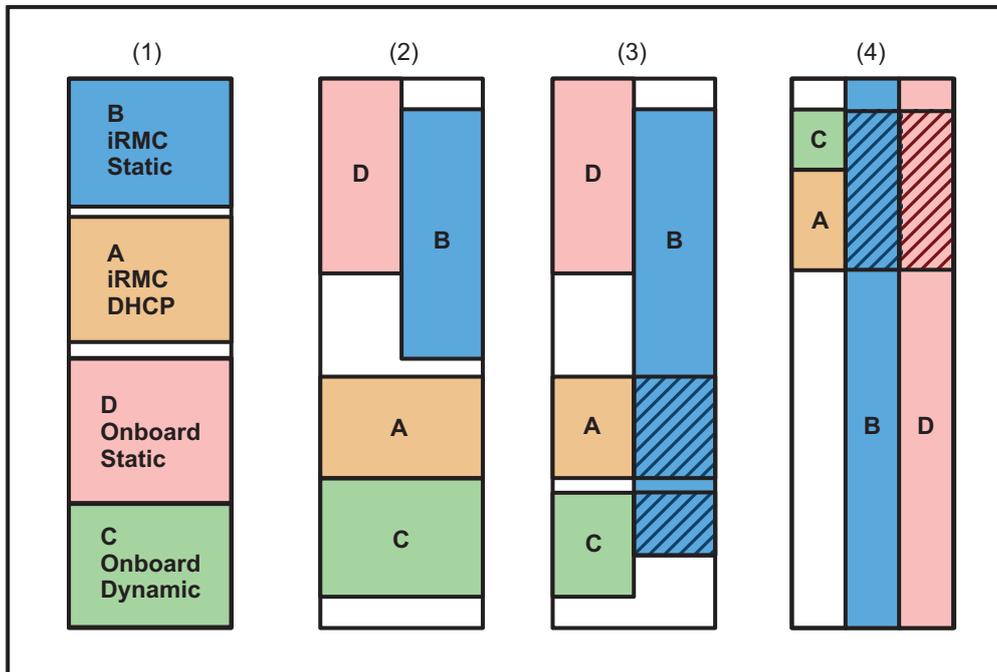
IPアドレス範囲の定義例



そのほかの設定例を「そのほかの定義例」に示します。

- (1) 各範囲を独立させ、IPアドレスが重複しないように設定した例
- (2) 範囲B（固定IPアドレス）と範囲D（固定IPアドレス）の一部だけが重複した例
- (3) 範囲B（固定IPアドレス）に範囲A（DHCP）と範囲C（動的範囲）が重複した例
- (4) サブネットの全範囲を固定IPアドレスとして設定した例

そのほかの定義例



▨ : 固定IPアドレスとしての使用は不可

① 情報

MMB、ETERNUSの管理用ポートはここで設定する範囲外でも動作します。ただし、範囲Aと範囲Cに含まれないように設定してください。

3.2 DHCP設定／PXE設定

プロファイル管理機能は、DHCPサーバおよびPXEサーバを利用して動作します。

必要な作業を次に示します。詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル（共通編）』（C122-0001）を参照してください。

- DHCP機能の有効化
- PXEサービスのインストール
- PXEで利用するファイアーウォールの設定

3.3 機器名／プロファイル名のルール

対象機器を登録するときは、1台ごとに固有の機器名を付けます。機器が検出された直後は、自動的にシリアル番号を元にした機器名が割り当てられていますが、管理しやすい名称に変更することを推奨します。

機器名には最大64文字の英数字またはハイフン (-)、アンダースコア (_) が使用できます。

一度登録した機器名は変更できないため、将来的なサーバ増設なども見据えて命名ルールなどを決めてお

くことをお勧めします。またファシリティ管理やServerView Operations Managerに対しても同名称が使われるため、これらとの重複も考慮してください。

また、プロファイルにも固有の名称を付けて管理します。プロファイルは一度サーバに適用すると変名や編集ができなくなります。プロファイルの内容を一部変更してサーバに適用しなおす場合は、既存プロファイルを活用作成して別名で保存してください。プロファイル名に版数や日時を含めるなど、流用作成なども考慮しておくことを推奨します。

① 情報

プロファイル名はHWプロファイル、OSプロファイル、プリセットなどすべてのプロファイルの中で固有でなければなりません。同一名称のプロファイルはHWプロファイルとOSプロファイルのそれぞれに作成することはできません。

3.4 プロファイル適用動作設定

プロファイル適用時に対象サーバと管理サーバとの間でデータの送受信を行うため、管理サーバ上に共有フォルダを作成しておきます。事前にWindows上で共有フォルダとアクセスするためのアカウント（ユーザー）を作成し、プロファイル管理上で情報を設定しておきます。

作成した共有フォルダおよびアカウントは、プロファイル適用動作設定画面に設定してください。詳細は、「4.13.2 プロファイル適用動作設定」を参照してください。

– 共有フォルダ

任意のフォルダ名および共有名で共有フォルダを作成する。指定したアカウントで外部から読み書き可能に設定する。また、ISMサービスから読み書き可能に設定する。

– アカウント

任意のユーザー名およびパスワードでアカウントを作成する。[ユーザーは次回ログイン時にパスワードの変更が必要]を無効化し、[パスワードを無期限にする]を有効化する。

Windows上のコマンドライン操作例を示します。

「C:¥ismshare」という名前の共有フォルダを作成し、「ismuser」という名前のアカウントでアクセスする場合を示します。使用する環境に合わせて適切に変更してください。

```
net user ismuser * /add
(パスワードの入力)
wmic useraccount where "Name='ismuser'" set PasswordExpires=FALSE
mkdir "C:¥ismshare"
icacls "C:¥ismshare" /grant "ismuser:(OI)(CI)(F)"
net share ismshare="C:¥ismshare" /GRANT:"ismuser,FULL"
```

① 情報

実行する環境や入力文字列に応じて、ダブルクォーテーションやシングルクォーテーションの必要性が異なる場合があります。

3.5 仮想管理ソフト設定

vCenterやSCVMMへのホスト登録機能を利用する場合は、登録先の情報などをあらかじめ設定しておきます。また、SCVMMの場合は次の操作も必要です。

- vCenterへのホスト登録を行う場合
 - 1.vCenter上でデータセンターを作成し、その配下にホスト登録先のフォルダまたはクラスタを準備します。
 - 2.仮想管理ソフト設定画面でvCenter稼動サーバのIPアドレスやログインアカウントを指定します。詳細は、「[4.13.4 仮想管理ソフト設定](#)」を参照してください。
- SCVMMへのホスト登録を行う場合
 - 1.SCVMM上でホスト登録先のフォルダを準備します。
 - 2.管理サーバをActive Directoryに所属させます。
 - 3.管理サーバ上にSCVMMのコンソールをインストールします。
 - 4.仮想管理ソフト設定画面でSCVMM稼動サーバのIPアドレスやログインアカウントを指定します。詳細は、「[4.13.4 仮想管理ソフト設定](#)」を参照してください。

3.6 ServerView関連ファイルのインポート

ISMはServerView Suiteの一部機能を利用して動作します。必要なファイルを取り込むために、ISMをインストールしたあと最初にプロファイル管理機能を利用する場合は、下記の2種類のDVDからインポートを行ってください。操作方法の詳細は「[4.13.3 各種DVDのデータインポート](#)」を参照してください。

- ServerView Suite DVD (Tools)

対象サーバと共に購入したDVDを利用します。
- Update DVD

最新版は以下URLのダウンロード画面からisoイメージファイルを取得できます。
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/>

① 情報

- 新しくリリースされたサーバを接続して管理する場合は、そのサーバをサポートしている最新のServerView Suite DVDから改めてインポートを行ってください。このとき、ISM自身もサーバに対応した版数へのアップデートが必要になることがあります。
- インポート前にプロファイル適用動作設定を完了させておいてください。

詳細は、「[3.4 プロファイル適用動作設定](#)」または「[4.13.2 プロファイル適用動作設定](#)」を参照してください。

3.7 ファームウェア/BIOSデータのインポート

ファームウェア、BIOSのアップデートを行う場合は、適用する版数のファームウェアまたはBIOSを含むアップデートDVDから、必要なデータを管理サーバ上に取り込んでおきます。詳細は、「4.13.3 各種DVDのデータインポート」を参照してください。

なお、インポート前にプロファイル適用動作設定を完了させておいてください。詳細は、「3.4 プロファイル適用動作設定」、または「4.13.2 プロファイル適用動作設定」を参照してください。

– Update DVD

最新版は以下URLのダウンロード画面からisoイメージファイルを取得できます。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/>

① 情報

プロファイル適用時にアップデートする版数を指定することはできません。過去にインポートしたデータのうち最新の版数がアップデートに使用されます。

3.8 OSインストール媒体のインポート

OSインストールを行う場合は、インストールするOSのインストールメディア内にあるファイルを、事前に管理サーバのハードディスク上にインポートしておきます。プロファイル管理はインポートされたファイルを使用してOSインストールを行います。

できるだけ、最新のServerView Suite DVD (Tools)をインポートしておいてください。その中に格納されている最新のデバイスドライバ類やパッチ類が適用されます。詳細は、「4.13.3 各種DVDのデータインポート」を参照してください。

なお、インポート前にプロファイル適用動作設定を完了させておいてください。詳細は、「3.4 プロファイル適用動作設定」、または「4.13.2 プロファイル適用動作設定」を参照してください。

それぞれのOS種類に対して、最後にインポートしたメディアのみが保持されます。例えば、Windows Server 2012 DatacenterのOEM版とパッケージ版を対象サーバによって分ける場合、インストール作業を2回に分け、それぞれのインストール前にインポートを行います。Windows Server 2012 DatacenterとStandardをインストールする場合は、あらかじめ2種類をインポートしておき、同時にインストールが可能です。

インポート可能なOSインストールメディアの種類は次のとおりです。

- Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter
- Windows Server 2012 Standard / Datacenter
- VMware ESXi 5.5 / Update1
- VMware ESXi 5.1 Update1 / Update2

① 情報

- Windows Server 2012 R2およびWindows Server 2012を利用する場合、メディアの種類（Standard用/Datacenter用）を正しく指定してください。
- 富士通から提供されているPRIMERGY向けメディア（イメージ）を使用してください。

3.9 メンテナンス支援機能で使用する媒体のインポート

メンテナンス支援機能で使用するファームウェアデータを必要に応じてインポートします。対象となる媒体は以下の2種類です。

- Cloud Ready Blocks Update Supplement
- FC Switchblade Firmware DVD

メンテナンス支援機能の詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル（メンテナンス支援機能編）』（C122-0004）を参照してください。

第4章 操作方法

ここでは、プロフィール管理を行うための [Profile Manager] 画面の操作方法を説明します。ISMの起動方法は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル（共通編）』（C122-0001）を参照してください。
ISM起動後に画面上部のメニューから [Profile Manager] をクリックするとプロフィール管理の画面が表示されます。

① 情報

プロフィール管理機能を使用する場合は、SVOMにログインするさいに「Administrator」ロールのユーザーでログインしてください。

4.1 画面構成

プロフィール管理を使用するときは、主に次の4種類の画面を切り替えて操作します。

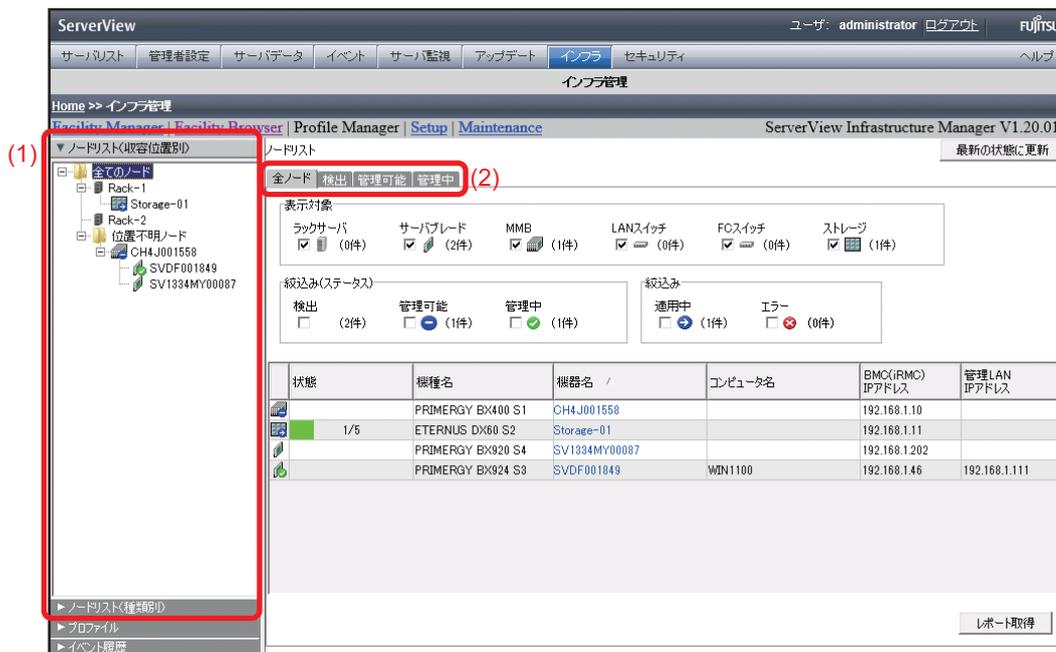
項	画面	備考
1	ノードリスト画面	機器の一覧が表示され、機器の操作を行う。
2	プロフィール画面	プロフィールの操作や参照を行う。
3	イベント履歴画面	実行した操作のログや処理結果を参照する。
4	セットアップ画面	各種動作設定や準備作業を行う。

4.1.1 ノードリスト画面

ノードリスト画面は、機器操作の基本となる画面です。Profile Managerの起動直後に表示され、主に次のことができます。

- 機器の検出と登録
- プロファイル適用操作と状態確認
- 機器情報やプロフィール適用履歴の確認
- IDランプ（識別LED）の制御や仮想管理ソフトへの登録

ノードリスト画面左側（1）で [ノードリスト（収容位置別）] または [ノードリスト（種類別）] を選択すると、ノードリスト画面の機器一覧表が表示されます。



画面左側には、登録または検出されている機器がツリー形式で表示されます。[ノードリスト（收容位置別）]ではツリーが物理搭載位置情報をベースとして表示され、[ノードリスト（種類別）]ではツリーが機器種別でまとめて表示されます。

画面右側には、機器が表形式で一覧表示されます。表示される機器は、ツリーの選択に応じて絞り込まれます。また、画面上の[表示対象]や[絞り込み]でも絞り込まれます。

画面右側 (2) の4つのタブを切り替えることにより、機器状態による表示の絞り込み、表示される情報、またはボタン類が切り替わります。作業目的によってタブを適切に切り替えて操作してください。

タブ名	表示される機器	主な使用場面、および可能な操作
全ノード	登録済み、および検出中のすべての機器	すべての機器の一覧や、各機器の詳細を参照する。
検出	検出されただけで、まだ登録されていない機器	機器の登録を行う。手動検出で新しく機器を検出する。
管理可能	プロファイル適用前の機器	プロファイル適用を開始する。機器登録を解除する。
管理中	プロファイル適用済みの機器	適用済みプロファイルを変更する。適用済みプロファイルを削除する。ハードウェア保守後に必要な操作を実施する。

情報

- シャーシ（MMB）には適用可能なプロファイルが存在しないため、シャーシは管理中タブに表示されません。
- 表示対象の絞り込み設定欄や、ノードリスト(種類別)には、LANスイッチ、およびFCスイッチが表示されますが、これらの機器は将来サポート予定です。
- 全ノード以外のタブでは、画面下部に[入カクリア]ボタンがあります。画面上で操作した内容で、登録および適用が行われる前の内容は[入カクリア]ボタンでリセットして、以前の状態に戻すことができます。

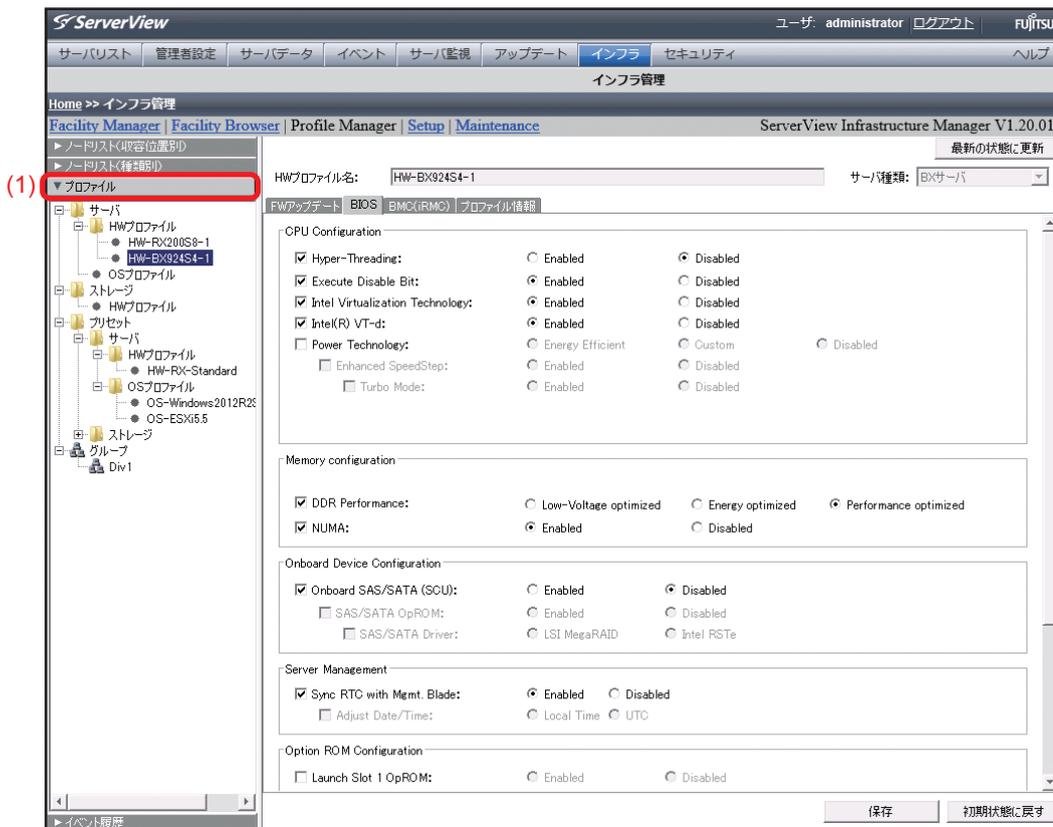
4.1.2 プロファイル画面

プロファイル画面は、プロファイルの操作や参照を行うための画面です。主に次のことができます。

- プロファイルの新規作成
- 既存プロファイルの削除、変名、流用作成などの操作
- 既存プロファイルの内容参照
- 適用済みプロファイルの適用先一覧表示

画面左側 (1) で [プロファイル] を選択すると、プロファイル画面が表示されます。

画面右側には、プロファイル内の設定項目が表示されます。プロファイル種類に応じたタブが表示され、各タブ内の設定を参照したり、変更したりできます。



4.1.3 イベント履歴画面

イベント履歴画面は、プロファイル管理上で行った操作およびその動作結果をログ形式で参照するための画面です。

画面左側 (1) で [イベント履歴] を選択すると、イベント履歴画面が表示されます。

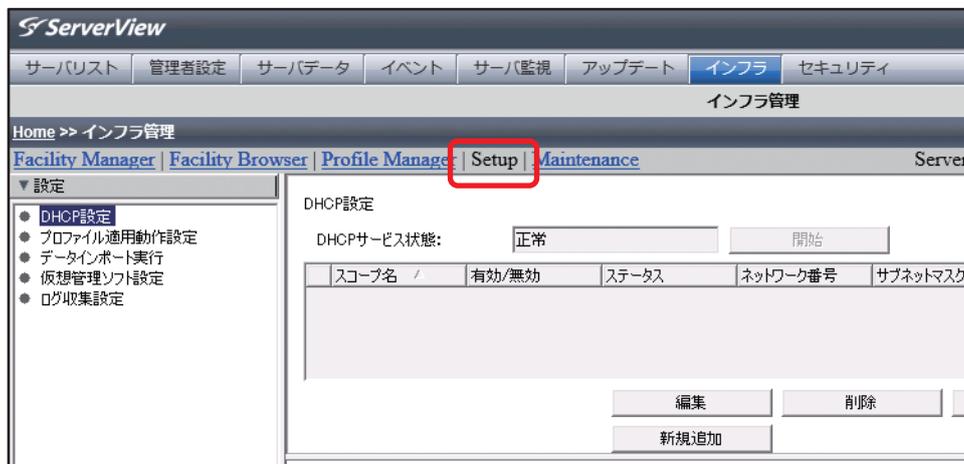


情報

特定の機器に関するプロファイル適用履歴を参照する場合は、ノードリスト画面の機器一覧表で機器プロパティ画面を開いて参照することもできます。

4.1.4 セットアップ画面

セットアップ画面は、プロファイル管理の動作設定や準備作業を行う画面です。画面上部のメニューから [Setup] をクリックすると、セットアップ画面が表示されます。左部メニューから次の各種画面を切り替えて使用します。



画面名称	主な使用場面、および可能な操作
DHCP設定	管理ネットワーク内のIPアドレス使用範囲を用途別に分けて定義する。
プロファイル適用動作設定	プロファイル適用動作時に使用されるポート番号や、管理サーバと対象サーバとの間でのデータ送受信に利用する共有フォルダの設定を行う。
データインポート実行	OSインストールメディアの取り込みや、プロファイル適用動作に必要なファイルをDVDから取り込む操作を行う。また取り込まれたデータの削除を行う。
仮想管理ソフト設定	vCenter、SCVMM)に対するホスト登録処理の動作を設定する。

画面名称	主な使用場面、および可能な操作
ログ収集設定	ログ収集機能の対象となる機器を登録する。詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル（ファシリティ管理機能編）』（C122-0002）を参照。

4.2 画面更新操作

プロフィール管理では、画面表示内容は自動更新されません。次の操作を行ったあとで作業進行状態を確認する、または処理結果を画面に表示させる場合は、画面右上の[最新の状態に更新]ボタンをクリックし、画面表示内容を最新状態に更新してください。

画面更新が必要な場面	備考
機器の自動検出／手動検出	新しいサーバを接続したあと、または手動検索を開始したあとで、画面に機器が表示されることを確認する。
機器の登録処理 (登録解除も含む)	登録ボタンをクリックしたあと、機器状態が「管理可能」になることを確認する。
プロフィールの適用 (プロフィール解除も含む)	プロフィール適用を開始したあと、プロフィール適用が完了してサーバのステータスが「管理中」になることを確認する。
仮想管理ソフトへの登録	登録を開始したあと、登録が正常終了して、サーバのステータスが「管理中」になることを確認する。
DVDからデータインポート	[インポート開始]ボタンをクリックしたあと、動作履歴表示で「処理完了」となることを確認する。 また、インポート元DVDの代わりにisoイメージファイルをマウントする場合は、マウント操作を行って新しいドライブが追加されたあとに[最新の状態に更新]をクリックする。
インポートされたデータの削除	[削除]ボタンをクリックしたあと、動作履歴表示で「処理完了」になることを確認する。
イベント履歴の表示	イベント履歴画面の表示ログを最新にする場合に操作する。

4.3 機器アイコン

機器の種類や状態はノードリスト画面の機器一覧表上のメッセージ表示と共に、アイコン種別でも表されます。

アイコン形状によって機器の種類を示し、機器アイコンの右下の記号で状態を示します。サーバの場合のアイコンと、その状態は次のとおりです。

アイコン (サーバの場合)	状態	備考
	検出状態	機器が検出されているが、登録されていない状態。

アイコン (サーバの場合)	状態	備考
	管理可能状態	登録が完了し、プロファイル適用が可能になった状態。
	管理中状態	プロファイルが適用された状態。シャーシ (MMB) はプロファイル適用操作がないため、本状態にはならない。
	処理中	プロファイルを適用中、または適用解除中。機器を登録中、または登録解除中。
	エラー	プロファイル適用中や機器登録中に異常が発生した状態。 エラー状態を解除するには、プロファイルを適用しなおすか、プロファイルの解除または機器の登録解除を行う。

4.4 機器検出

ここでは、新規に接続された機器類を検出し、画面に表示する手順を説明します。

対象機器がサーバ本体の場合は、自動検出または手動検出の2種類の方法があります。対象機器がシャーシ (MMB)、ETERNUSの場合は手動検出となります。

4.4.1 サーバの自動検出

iRMCのIPアドレスがDHCPになっているサーバを接続すると、サーバは自動的に検出されます。サーバの工場出荷時設定は「DHCP」のため、通常は自動検出を利用します。iRMCのIPアドレスが固定IPアドレスの場合、DHCP設定に戻して自動検出するか、固定IPアドレスのまま手動検出します。

サーバを自動検出する手順は次のとおりです。

1. サーバを管理ネットワークに接続し、電源ケーブルを接続します。
2. ノードリスト画面を [検出] タブに切り替え、[最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

画面上にサーバが表示されます。

	状態	機種名	機器名 (仮)	機器名 (登録後)	固定IP	位置 登録	ラック名	Unit 位置
<input checked="" type="checkbox"/>		PRIMERGY BX920 S4	SV1334MY00087	SV1334MY00087	192.168.1.61	指定	Rack-1	10-6

情報

iRMCのIPアドレスがDHCPサービスによって割り当てられた時点で、サーバが検出されます。検出されない場合は1分ほど待ってから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴で検出終了を確認することもできます。

3. [機種名] 欄で目的のサーバが検出されていることを確認します。

4.4.2 サーバの手動検出

iRMCのIPアドレスをあらかじめ固定IPアドレスに設定した状態で運用を開始する場合は、手動検出を利用します。

サーバを手動検出する手順は次のとおりです。

1. 事前にBIOS Setup UtilityなどでiRMCのIPアドレスを設定します。

2. サーバを管理ネットワークに接続し、電源ケーブルを接続します。
3. ノードリスト画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。

[手動検出] ダイアログボックスが表示されます。

4. サーバのIPアドレスを指定するか、目的のIPアドレスを含む範囲を指定したあと、[検出実行] ボタンをクリックします。

サーバだけを検索する場合はSNMPは利用しないため、SNMPコミュニティ名の指定は不要です。

① 情報

範囲指定する場合は、1つのサブネット内の範囲で指定します。指定可能なIPアドレスの範囲は最大で256個となります。

5. 「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
6. しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

画面の上に検出されたサーバが表示されます。

状態	機種名	機器名 (仮)	機器名 (登録後)	固定IP	位置 登録	ラック名	Unit 位置
✓	PRIMERGY BX920 S4	SV1334MY00087	SV1334MY00087	192.168.1.61	指定	Rack-1	10-6

① 情報

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待つてから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴で検出終了を確認することもできます。

4.4.3 ブレードシャーシ（MMB）の手動検出

ブレードシャーシに搭載されたマネジメントブレード（MMB）を検出します。MMBのIPアドレスは工場出荷時に（192.168.1.10）で固定となっています。接続されるネットワーク環境に合わせて適切な固定IPアドレスに変更してください。また、検出時にはSNMPを利用した情報収集も行います。MIB情報の読み取りが行えるようにMMB側のコミュニティ名の設定と読み取り権限の設定も必要となります。

① 情報

- ブレードシャーシとMMBは同一機器として扱われます。
- SNMPコミュニティは、機器登録後も情報の取得に利用するため、検出後は変更しないでください。

ブレードシャーシを手動検出する手順は次のとおりです。

1. シャーシの電源をオンにします。
2. MMBのIPアドレスおよびSNMP設定を行います。
3. ノードリスト画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。
[手動検出] ダイアログボックスが表示されます。
4. MMBのIPアドレスまたはIPアドレスを含む範囲を指定し、SNMPコミュニティ名を入力して [検出実行] ボタンをクリックします。
5. 「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
6. しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
画面上に検出されたシャーシが表示されます。

① 情報

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待つてから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴で検出終了を確認することもできます。

4.4.4 ストレージETERNUSの手動検出

ETERNUS内に搭載されたCMと通信を行って装置を検出します。CMのIPアドレスは工場出荷時に192.168.1.1（固定）に設定されています。接続されるネットワーク環境に合わせて適切な固定IPアドレスに変更してください。また、検出時にはSNMPを利用した情報収集も行います。MIB情報の読み取りが行えるようにETERNUS側のコミュニティ名の設定と読み取り権限の設定も必要となります。

① 情報

ETERNUSの出荷時に設定されているログインアカウント（root）とTelnetでの通信を制御に利用します。これらの設定を変更する場合は、Profile ManagerによるETERNUSの操作がすべて完了したあとに変更してください。

ETERNUSを手動検出する手順は次のとおりです。

1. ETERNUSの電源をオンにします。
2. IPアドレスおよびSNMP設定を行います。
3. ノードリスト画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。
[手動検出] ダイアログボックスが表示されます。
4. ETERNUSのIPアドレスまたはIPアドレスを含む範囲を指定し、SNMPコミュニティ名を入力して [検出実行] ボタンをクリックします。
5. 「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
6. しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
画面上に検出されたETERNUSが表示されます。

① 情報

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待つてから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴で検出終了を確認することもできます。

4.5 機器登録

ここでは、検出された機器の登録および解除の手順を説明します。

① 情報

登録可能な機器の台数はライセンスにより制限されます。[検出] タブに切り替えて画面下部の [登録数表示] ボタンをクリックすると、現在の機器登録台数およびライセンスの台数が表示されます。

ライセンスの詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル (共通編)』(C122-0001) を参照してください。

4.5.1 登録

検出した機器をプロファイル管理で操作するには、機器の登録が必要です。
機器を登録する手順は次のとおりです。

1. [検出]タブ画面に登録する機器が正しく検出されていることを確認します。
2. 機器名欄に青色で表示されている機器名をクリックします。

機器プロパティ画面が表示されます。

① 情報

右クリックして表示されるポップアップメニューから [プロパティ] を実行すると異なる画面が表示されます。必ず機器名をクリックしてください。

ノード検出状態
機器プロパティ

機器名:	SVNS987654	BMC(iRMC) IPアドレス:	192.168.1.200	BMC(iRMC) Web
シリアル番号:	YLNS987654	BMC(iRMC) MACアドレス:	F8:0F:41:F5:0C:CF	
機種名:	PRIMERGY RX200 S8	管理LAN IPアドレス:		
種類:	サーバ	OS名:		
ステータス:	ノード検出	コンピュータ名:		
作業中操作:		ラック名:		
作業状況:		搭載位置:		
HWプロファイル:		スロット番号:		

編集

機器名(任意指定):	SVNS012345
固定IP:	192.168.1.2 (指定可能IP範囲: 192.168.1.2~192.168.1.199 192.168.1.220~192.168.1.254)

新しいグループ グループコピー 保存 キャンセル

3. 機器プロパティ画面下部の [機器名 (任意指定)] および [固定IP] を変更し、[保存] ボタンをクリックします。

① 情報

- この時点では入力内容は確定していません。手順7の [ノード登録] ボタンのクリック時に確定します。
- IPアドレスはプルダウンリストからの選択、またはキー入力による直接指定が可能です。

4. 機器の搭載先ラックやラック内位置を指定する場合は、位置登録欄の [指定] ボタンをクリックします。

[未登録機器登録] ダイアログボックスが表示されます。

5. [ラック名] および [占有ユニット数] を指定し、搭載位置をラックグラフィック上で指定したあと、[保存] ボタンをクリックします。

① 情報

- この時点では入力内容は確定していません。手順7の [ノード登録] ボタンのクリック時に確定します。
- 占有ユニット数は対象装置に応じて自動的に高さが指定されています。変更が必要な場合のみ指定します。

6. 複数の機器を同時に登録する場合は、手順1から手順5を繰り返します。
7. ノードリスト画面の機器一覧表で登録する機器のチェックボックスだけをオンにし、[ノード登録] ボタンをクリックします。

登録処理を開始します。

8. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

処理が完了するのを待ちます。

① 情報

登録が正常に終了すると、機器状態が管理可能になります。[検出] タブから登録した機器の表示が消え、[管理可能] タブに表示されるようになります。

4.5.2 登録解除

装置を撤去するなど、その後のプロファイル管理機能を使用しない場合には、登録状態を解除できます。

① 情報

- 登録を解除した時点で操作履歴などの情報は失われます。登録解除した機器を再登録して利用することは可能ですが、履歴は引き継がれません。

- Facility Managerに登録された情報やSVOMの登録は、Profile Managerの登録を解除しても残ります。必要に応じて削除してください。例えばノード名やラック内の登録位置を変更して再登録する場合などは、ファシリティ管理でも一度機器を削除してください。操作方法の詳細は、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager V1.2 ユーザーマニュアル（ファシリティ管理機能編）』（C122-0002）を参照してください。

機器の登録を解除する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面の [管理可能] タブをクリックします。
2. ノードリスト画面の機器一覧表で、登録解除する機器の状態が「管理可能状態」であることを確認します。

① 情報

機器状態が「管理中状態」の場合は、事前にプロファイルの解除を行って「管理可能状態」にします。

3. ノードリスト画面の機器一覧表で登録解除する機器のチェックボックスをオンにし、[ノード登録解除] ボタンをクリックします。

登録解除処理を開始します。

4. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

処理が完了するのを待ちます。

① 情報

対象がサーバで、登録前のiRMCのIPアドレス設定がDHCPだった場合はDHCP設定に戻るため、すぐに自動検出されて [検出] タブに表示されます。固定IPアドレスだった場合はIPアドレスは変化しません。機器は手動検出を行うまで検出されません。

4.6 プロファイル操作

ここでは、プロファイルの作成および管理の手順を説明します。
プロファイルは各種合計1,000個まで作成できます。

4.6.1 サーバ用HWプロファイルの新規作成

サーバ用のHWプロファイルにはサーバのBIOS設定、BMC（iRMC）設定、およびファームウェアアップデートの有無を指定できます。

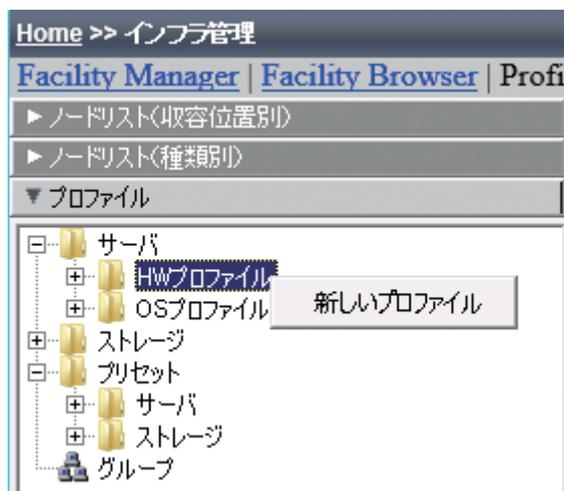
① 情報

- HWプロファイル内の設定項目は個々に設定の「無効」または「有効」を指定できます。「無効」の場合は設定の変更を行わず、機器の状態を保持します。工場出荷時設定のまま使用する項目は「無効」にしておくと、設定が変更されません。
- OSのインストールだけを行う場合でもHWプロファイルは必ず適用してください。適用時にハードウェア設定を全く変更する必要がなければ、すべての項目を「無効」としてください。

プロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。

1. プロファイル画面左側の [HWプロファイル] を右クリックし、表示されるメニューから [新しいプロファイル] を実行します。

[HWプロファイル]が表示されていない場合は、[サーバ]の左側にある[+]をクリックすると、[HWプロファイル]および[OSプロファイル]がツリー下に表示されます。



2. 画面右側のHWプロファイル初期画面で、プロファイル名とサーバ種類を入力します。
 - プロファイル名
プロファイルに対して任意の名称を付けます。他のプロファイルと同じ名称は利用できません。
 - サーバ種類
適用対象となるサーバ種類をプルダウンから選択します。対象機器によってHWプロファイル内の設定項目が若干異なります。

① 情報

プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. サーバ種類を選択後、設定項目を入力します。

画面は4個のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

タブ名	設定内容
FWアップデート	ファームウェア/BIOSのアップデート有無を指定する。
BIOS	各種BIOS設定を指定する。
BMC (iRMC)	各種iRMC設定を指定する。
プロファイル情報	プロファイルの管理情報。

初期状態では各項目の左端のチェックボックスはオフになっています。設定を変更する場合は、チェックボックスをオンにして設定を指定してください。項目のチェックボックスがオフの状態では設定が「無効」となり、プロファイル適用時に設定は行われません。

例：Hyper-Threadingの設定

初期状態は左端のチェックが外れた状態です。Hyper-Threading設定を変更しないことを示しています。

<input type="checkbox"/> Hyper-Threading: <input type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
--

Hyper-Threading設定を行う場合は、チェックボックスをオンにしたあとで設定内容を指定します。

<input checked="" type="checkbox"/> Hyper-Threading: <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
--

① 情報

設定可能な項目の詳細は、「付録A サーバ用HWプロファイルの設定項目」を参照してください。

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

プロファイルの内容に問題がある場合は画面上に警告が表示されます。そのまま保存する場合は[保存] ボタンをクリックします。プロファイルを修正するために編集画面に戻る場合は[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

① 情報

問題が残った状態でも保存はできますが、プロファイル適用はできません。

4.6.2 OSプロファイルの新規作成

OSプロファイルではインストールするOS種別のほか、インストール先ドライブやインストール後のネットワーク設定を指定します。

OSプロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。

1. プロファイル画面左側の [OSプロファイル] を右クリックし、表示されるメニューから [新しいプロファイル] を実行します。

[OSプロファイル] が表示されていない場合は、[サーバ] の左側にある [+] をクリックすると、[HWプロファイル] および [OSプロファイル] がツリー下に表示されます。

2. 画面右側のOSプロファイルの初期画面で、プロファイル名とOS名を入力します。

- プロファイル名

プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。

- OS名

インストールするOSの種類をプルダウンから選択します。

① 情報

プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. OS名を選択後、設定項目を入力します。

画面は4個のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

タブ名	設定内容
OSインストール	OSインストール先や各種設定を指定する。OSの種類によって設定項目は異なる。

タブ名	設定内容
使用許諾契約確認	VMwareの場合のみ表示される。OSの使用許諾を確認し、合意する場合は画面下部にチェックする。
個別情報	OSプロファイルを複数サーバに適用するさい、サーバごとに異なる設定項目を指定する。(例：IPアドレス)
プロファイル情報	プロファイルの管理情報。

[個別情報] タブを開くと、初期状態では何も設定されていない状態になっています。[追加] ボタンをクリックすると、サーバ1台分の入力行が表示されて、設定の入力が可能になります。行内の項目をダブルクリックして入力を行います。

名称 バスワードドメイン ネットワーク				
ID	適用機器名	名前	組織名	コンピュータ名
1	未適用	IA	Fujitsu	Server1
2	未適用			

追加 削除 複写

[ID] 欄と [適用機器名] 欄は参照のみ可能で、入力はできません。[ID] 欄はサーバにプロファイルを適用するさいに、個別情報を指定する番号です。[適用機器名] 欄には、プロファイル適用後に機器名が表示されます。

設定入力済みの行を選択した状態で [複写] ボタンをクリックすると、新しい入力行が追加され、選択した行の内容がコピーされます。このときIPアドレスは既存の入力行に+1した値となります。

入力行を削除する場合は、不要な行を選択して [削除] ボタンをクリックします。入力行が削除されます。

① 情報

- 設定可能な項目の詳細は「付録 B サーバ用OSプロファイルの設定項目」を参照してください。
- 個別IDは1つのOSプロファイルにつき最大100個まで作成できます。

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

プロファイルの内容に問題がある場合は画面上に警告が表示されます。そのまま保存する場合は[保存] ボタンをクリックします。プロファイルを修正するために編集画面に戻る場合は[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

① 情報

問題が残った状態でも保存はできますが、プロファイル適用はできません。

4.6.3 ストレージ用HWプロファイルの新規作成

ストレージ用HWプロファイルでは、ETERNUSに対してRAIDの作成およびホットスペアの作成を指示します。

① 情報

- RAIDを作成すると、その最大容量を利用して1個のボリュームが自動的に作成されます。自動的に名前が付けられますので、RAID名、ボリューム名は指定できません。
- プロファイル適用時、RAIDおよびホットスペアの作成は、未使用のドライブが必要な台数存在する

場合にのみ行われます。すでにRAIDが構築されている場合、またはプロファイルを取り外した場合は構成の削除を行いません。

ストレージ用HWプロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。ホットスペアについても同様の手順で行います。

1. プロファイル画面左側の [HWプロファイル] を右クリックし、表示されるメニューから [新しいプロファイル] を実行します。

[HWプロファイル] が表示されていない場合は、[ストレージ] の左側にある [+] をクリックすると、[HWプロファイル] がツリー下に表示されます。

2. 画面右側のHWプロファイルの初期画面で、プロファイル名とストレージ種類を入力します。

- プロファイル名
プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。
- ストレージ種類
適用対象のETERNUSのモデル名をプルダウンから選択します。

① 情報

プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. ストレージ種類を選択後、設定項目を入力します。

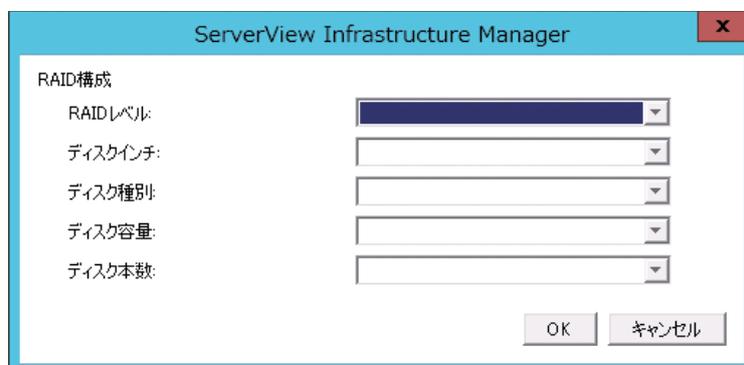
画面は2個のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

タブ名	設定内容
RAID構成	作成するアレイおよびホットスペアを指定する。
プロファイル情報	プロファイルの管理情報。

RAID構成画面では、任意の数のアレイを指定できます。RAID構成を指定して追加する場合はRAID構成欄の下にある [追加] ボタン、追加した行を変更する場合は行を選択して [編集] ボタン、また削除する場合は行を選択して [削除] ボタンをクリックします。

[追加] ボタンをクリックすると次のダイアログボックスが表示されます。

上から順に値を入力し、[OK] ボタンをクリックすると、入力した内容がプロファイルに追加されます。



4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

4.6.4 プロファイルの編集

保存されたプロファイルは、機器に適用する前であれば自由に設定内容を変更できます。OSプロファイルは適用後であっても個別情報の未適用のIDや新規追加のIDは編集が可能です。ただし、適用後のOSプロファイルは個別情報の内容にエラーが残った状態では保存できません。プロファイルを編集する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーを展開し、編集対象のプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名をクリックします。
画面右側にプロファイルの内容が表示されます。
3. 画面右側のプロファイル内容を変更し、[保存] ボタンをクリックします。
変更内容を保存しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックするか、保存せずに別の画面に移動します。

4.6.5 プロファイルの流用作成

過去に作成したプロファイルを元にして、別のプロファイルを作成します。

① 情報

- HWプロファイルの機器種別やOSプロファイルのOS種類を変更することはできません。
- OSプロファイルの流用時、個別情報は引き継がれません。
- プリセットのプロファイルを元に流用作成することも可能です。詳細は、「[4.6.8 プリセットプロファイル](#)」を参照してください。

プロファイルを流用して別のプロファイルを作成する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーを展開し、流用元になるプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名を右クリックし、メニューから [プロファイルを流用作成] を実行します。
画面右側にプロファイルの内容が表示され、[プロファイル名入力] 欄が表示されます。
3. 新しいプロファイル名を入力し、画面右側のプロファイル内容を編集したあと、[保存] ボタンをクリックします。
新しい名前で作成されたプロファイルが作成されます。

4.6.6 プロファイルの削除

保存されているプロファイルを削除します。

① 情報

- 適用処理中または適用済みのプロファイルは削除できません。適用されたすべてのプロファイルが取り外されるか、別のプロファイルに変更されたあとは削除可能となります。
- プリセットのプロファイルは削除できません。

プロファイルを削除する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーを展開し、削除するプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名を右クリックし、[プロファイルを削除] を実行します。

[削除確認] ダイアログボックスが表示されます。

3. [はい] ボタンをクリックします。
プロファイルが削除されます。

4.6.7 プロファイルの名前変更

保存されているプロファイルの名前を変更します。

① 情報

- 適用処理中または適用済みのプロファイルは名前変更ができません。適用されたすべてのプロファイルが取り外されるか、別のプロファイルに変更されたあとは変更可能となります。
- プリセットのプロファイルは名前変更ができません。

プロファイルの名前を変更する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーを展開し、名前を変更するプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名を右クリックし、[プロファイルのリネーム] を実行します。
名前を入力するダイアログボックスが表示されます。
3. 新しいプロファイルの名前を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
プロファイルの名前が変更されます。

4.6.8 プリセットプロファイル

用途に応じたいくつかのプロファイルがあらかじめ準備されています。これらを流用作成することで効率的にプロファイルを作成できます。

① 情報

プリセットプロファイルをそのまま装置へ適用することはできません。流用作成機能を利用して別のプロファイルを作成したうえで適用します。

プリセットプロファイルを流用してプロファイルを作成する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリー内の [プリセット] の下を展開し、保存されているプリセットプロファイルを表示します。
2. 次の方法で目的に最も近いプロファイルを選択します。
 - プロファイル名から選択する
 - プロファイルをクリックし、右側メイン画面の [プロファイル情報] タブからメモ欄を確認する
 - プロファイル内の各設定項目を確認する
3. ツリー上で利用するプロファイルを右クリックし、[プロファイルを流用作成] を実行します。
4. 新しいプロファイル名を入力し、画面右側のプロファイル内容を編集したあと、[保存] ボタンをクリックします。
新しい名前で作成されたプロファイルが作成されます。

4.7 プロファイル適用

ここでは、プロファイルの適用、変更、および取り外しの手順を説明します。
装置の状態を変更するには、作成したプロファイルを装置に適用する必要があります。
サーバに対してはサーバ用のHWプロファイルとOSプロファイルの2種が適用できます。ディスクアレイ装置ETERNUSに対してはストレージ用のHWプロファイルが適用できます。

4.7.1 プロファイルの適用

次の操作を行う手順について説明します。

- 管理可能状態の機器に対して、新しくプロファイルを適用する
- 管理中状態の機器に対して、別のプロファイルを適用する
- HWプロファイルのみ適用済みの管理中状態のサーバに対して、OSプロファイルを追加適用する

プロファイルを適用する手順は次のとおりです。

1. 電源のオン/オフを確認します。

対象機器がサーバの場合は、サーバの電源がオフ（電源ケーブルは接続）であること、およびローカルブートが可能なUSBメモリやDVDドライブが接続されていないことを確認します。

対象機器がETERNUSの場合は、電源がオンであることを確認します。

i 情報

ETERNUSの場合、Web GUIや他の管理ソフトウェアから操作中の状態では、プロファイル適用がエラーになることがあります。操作を終了させた状態でプロファイル適用を開始してください。

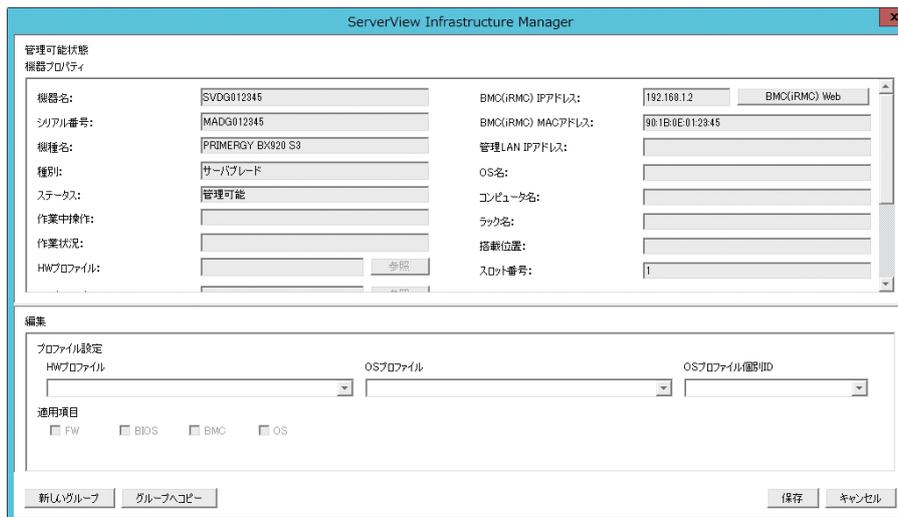
2. ノードリスト画面の [管理可能] または [管理中] タブをクリックします。

目的の対象機器が表示されます。

ツリーの選択や絞り込み機能で表示対象が限定されていて目的の機器が表示されない場合は、表示条件を変更してください。

3. ノードリスト画面の機器一覧表で、プロファイルを適用する機器の機器名をクリックします。

機器プロパティ画面が表示されます。



4. 機器プロパティ画面下部のプルダウンメニューから適用するプロファイル名を指定します。
OSプロファイルを適用する場合は、個別設定の番号（個別ID）も指定します。

① 情報

- 対象機器に適用可能なプロファイルだけが選択できます。目的のプロファイル名が表示されない場合は、プロパティ画面でサーバ種類、ストレージ種類が正しいか確認してください。
- OSの個別IDは1つにつき1サーバのみに指定できます。個別IDが不足していてプルダウンに表示されない場合は、プロファイル編集で個別情報を増やしてください。
- OSプロファイルだけを適用することはできません。必ずHWプロファイルを指定してください。
- メンテナンス支援機能でファームウェアアップデート中の機器は操作できません。アップデートの終了を待ってください。

5. [保存] ボタンをクリックします。

この時点では、まだプロファイル適用を開始しません。

6. ノードリスト画面に戻ったら、一覧画面内の適用対象機器の左端にあるチェックボックスがオンになっていること、およびプロファイル名が正しいことを確認します。

一覧右端のチェックは、機器に対して行われる処理を示します。

① 情報

複数の装置に対して同時にプロファイル適用を行うことが可能です。手順1から手順5を繰り返し、対象となる装置すべてにプロファイルを指定します。

- プロファイル適用の操作は、一度に10台を超えて行うことができます。例えば11台同時に開始した場合、1台はプロファイル適用が待機中となり、他の1台の処理が完了した時点で自動的に適用が開始されます。
- DHCP設定の内容によっては、同時実行数は10台より少なくなる場合があります。

7. [プロファイル適用] ボタンまたは [プロファイル変更] ボタンをクリックします。

8. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[はい] をクリックします。

プロファイル適用を開始します。

プロファイル適用が開始されると、機器アイコンは処理中となり、処理の進行状況が状態欄に表示されます。状態欄は自動更新されません。適宜、画面右上の [最新の状態に更新] ボタンをクリックして進行状況を確認してください。

	状態	機種名	機器名	コンピュータ名	HWプロファイル	OSプロファイル	ID	適用項目			
								FW	BIOS	EMC	OS
<input type="checkbox"/>		PRIMERGY BX90...	CH4J001558								
<input type="checkbox"/>		PRIMERGY BX92...	SV1320MX00050								
<input type="checkbox"/>	1/8	PRIMERGY RX30...	SVAR000108		RX null	VMware1	3				✓

① 情報

- プロファイルの内容に応じて、数分から1時間程度の処理時間が必要です。詳細は、「2.3 処理時間の目安」を参照してください。

- イベント履歴画面で処理完了を確認することもできます。

- プロファイル適用中に、別の機器に対してプロファイル適用を開始することもできます。

プロファイル適用が完了すると、機器アイコンが管理中となり、状態欄は空欄に戻ります。管理可能タブ内に表示されていた機器は管理中タブへ移動します。

適用中に問題が発生した場合は、機器アイコンがエラー状態となり、状態欄がエラーを示します。状態欄にマウスカーソルを重ねるとエラー発生時の処理内容が表示されます。エラー要因を取り除いたあと、再度プロファイルを適用してください。詳細は、「付録D トラブルシューティング」を参照してください。

① 情報

エラー時はプロファイル未適用として扱われるため、装置は管理可能状態になります。ただし、OSインストール完了後の仮想管理ソフトへの登録でエラーになった場合、OSプロファイルは正常適用完了として扱われ、装置は管理中状態となります。この場合はマニュアル操作で仮想管理ソフト登録を行ってエラー状態を解除します。詳細は、「4.8.8 仮想管理ソフトへの登録」を参照してください。

4.7.2 プロファイルの適用中止

プロファイル適用中の装置に対して強制的に適用処理を中止します。中止した装置の状態はエラーとなります。

プロファイルの適用を中止する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面の [管理可能] または [管理中] タブを開きます。
2. ノードリスト画面の機器一覧表で適用を中止する機器のチェックボックスをオンにします。
3. 画面下部の [プロファイル適用中止] または [プロファイル変更中止] (タブにより異なる) をクリックします。

ノードリスト画面の機器一覧表の状態欄表示が「中止中」となります。

① 情報

[管理可能] および [管理中] タブの複数の装置に対してプロファイルの適用中止を行う場合は、それぞれのタブで手順2と手順3を実行してください。

4. [最新の状態に更新] ボタンをクリックし、適用中止が完了するのを待ちます。

中止を指示したときの機器状態によって、中止完了まで時間がかかることがあります。

中止が完了すると状態欄が「中止完了」となります。

4.7.3 プロファイルの再適用

プロファイル適用済みの装置に対して、プロファイルの一部を上書き適用できます。例えば次のような場面で行います。

- OSの再インストール（OSプロファイル適用済みの装置に対して、再度同一条件でOSのインストール）
- 新しいファームウェアがリリースされたため、再度ファームウェアのアップデート

⚠ 注意

OSプロファイルの再適用を実行すると、ディスク内のデータは完全に消失します。誤って実行することのないよう、実行時は操作対象サーバの確認を含め、十分に注意してください。

ℹ 情報

- 本操作の対象はサーバのみです。ETERNUSに対して再適用はできません。
- ファームウェアアップデート指定時、すでに同一版数が適用済みの場合は上書きされません。

プロファイルを再適用する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面の [管理中] タブから機器名をクリックします。
機器プロパティ画面が表示されます。
2. ウィンドウ内下部の [適用項目] のチェック欄で再適用したい操作のチェックボックスをオンにします。
 - FW : ファームウェア/BIOSのアップデートを再実行する。
 - BIOS : BIOSタブに記述されている設定を装置へ再適用する。
 - BMC : BMC (iRMC) タブに記述されている設定を装置へ再適用する。
 - OS : OSプロファイルの内容に従い、再インストールを行う。

ℹ 情報

適用中のプロファイルに設定がない項目はチェックボックスをオンにできません。

3. [保存] ボタンをクリックし、プロパティ画面を閉じます。
4. ノードリスト画面の機器一覧表で対象機器のチェックボックスをオンにしている状態で [プロファイル変更] ボタンをクリックします。

プロファイルの適用が完了するのを待ちます。

4.7.4 プロファイルの解除

プロファイル適用中の機器からプロファイルを取り外し、プロファイル未適用（適用可能）の状態に戻します。ただし、実機の設定をプロファイル適用前に戻すわけではなく、原則として機器に設定された内容やインストールされたOSはプロファイル解除後もそのまま残ります。

次の設定が、適用前の状態に戻ります。

分類	設定項目名	備考
HWプロファイル内BMC (iRMC) 設定	[BMC(iRMC)のAdminアカウント] [BMC(iRMC)のAdminパスワードを変更する] [BMC(iRMC)のAdminパスワード]	プロファイルでアカウントを変更していた場合は、解除時にBMC(iRMC)のAdminアカウントを有効に戻す。 BMC (iRMC) のAdminパスワードは、解除時にデフォルトパスワードに戻す。
HWプロファイル内BMC (iRMC) 設定	[iRMCアカウント(admin権限)] [iRMCパスワード(admin権限)]	プロファイルで作成したアカウントは、解除時に削除される。

ℹ 情報

- HWプロファイルかOSプロファイルの片方のみを選択して解除することはできません。
- プロファイル適用を処理中の装置は解除できません。プロファイル適用を中止してください。詳細は、「4.7.2 プロファイルの適用中止」を参照してください。

プロファイルを解除する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面の [管理中] タブをクリックします。
2. プロファイルを解除する装置のチェックボックスをオンにします。
3. 画面右下の [プロファイル取り外し] ボタンをクリックします。
4. 確認画面で [OK] ボタンをクリックします。

プロファイルの解除が開始され、対象の装置には進行状況が表示されます。

5. [最新の状態に更新] ボタンをクリックし、装置が「管理可能」状態になるのを待ちます。

4.8 機器情報表示

機器プロパティ画面で、登録済みの機器または検出された機器の固有情報を参照します。また、IDランプ（識別LED）の制御、ローカルノートの編集もできます。

4.8.1 プロパティ画面の表示

各種操作は機器プロパティ画面から行います。
プロパティ画面を表示する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーまたはノードリスト画面の機器一覧表に表示されているノード名を右クリックし、表示されるメニューから [プロパティ] を実行します。
2. プロパティ画面が表示され、各種情報を確認します。

4.8.2 Web画面接続

[BMC(iRMC) Web] ボタンをクリックすると、新しくWebブラウザを開き、表示されているIPアドレスに対してhttpで接続します。
サーバの場合は、iRMC Webインターフェースが起動します。MMBまたはETERNUSの場合は、それぞれのWeb操作画面が起動します。

4.8.3 識別LED操作

IDランプ（識別LED）の状態を画面に表示する場合は、[取得] ボタンをクリックします。[点灯] ボタンまたは[消灯] ボタンでLEDの状態を操作できます。

4.8.4 プロファイル参照

機器にプロファイルが適用済みの場合は、プロファイル欄の右の [参照] ボタンをクリックするとプロファイルの内容が表示されます。

4.8.5 VIOMプロファイル参照

VIOMプロファイルが適用されている場合は、プロファイル欄の右の[取得] ボタンをクリックすると適用中のプロファイル名が表示されます。

4.8.6 プロファイル適用履歴表示

画面下部の[適用履歴取得] ボタンをクリックすると、過去および現在のプロファイルの適用、変更の操作履歴が表示されます。

履歴一覧からプロファイル名の部分をクリックすると、プロファイルの内容が表示されます。

4.8.7 ローカルノートの編集

ローカルノートの記事を変更する場合は、記事を直接編集したあと、右の[編集] ボタンをクリックすると変更が保存されます。

4.8.8 仮想管理ソフトへの登録

画面下部の[仮想管理ソフト登録] ボタンをクリックすると、対象サーバをvCenterまたはSCVMMに登録できます。

① 情報

OSプロファイル適用済みのサーバに対して実行できます。本機能を利用するさいは、事前に仮想管理ソフト登録設定を行ってください。詳細は、「[4.13.4 仮想管理ソフト設定](#)」を参照してください。

仮想管理ソフトを登録する手順は次のとおりです。

1. [仮想管理ソフト登録] ボタンをクリックします。

登録先情報が表示されます。

2. 登録先に問題なければ[OK] ボタンをクリックします。

仮想管理ソフトの登録を開始します。

登録中は装置状態を示すアイコンが「処理中」となり、ノードリスト画面の機器一覧表内の進行バーが「登録中」となります。

3. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

作業が完了するのを待ちます。

	状態	機種名	機器名	コンピュータ名	HWプロファイル	OSプロファイル	ID	適用項目			
								FW	BIOS	BMC	OS
<input type="checkbox"/>	登録中	PRIMERGY RX200 S8	SVNS012345	Met2	HW_Mgmt_RX200S...	OS_Mgmt_RX200S...2					

4.9 サーバ保守後操作

サーバのハードウェア故障によってサーバ内の部品やサーバ自体の交換を行った場合は、交換部材に応じて、プロファイル管理機能の操作が必要になります。

① 情報

装置保守または装置交換を完了して問題が解決したあとで本操作を実行します。

サーバ保守後の操作手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面の [管理中] タブをクリックします。

対象のサーバが表示されます。

2. ノードリスト画面の機器一覧表の左端にあるチェックボックスをオンにします。
3. 画面下部の [保守管理 (ノード交換)] ボタンをクリックします。

交換処理画面が表示されます。画面の上半分にはサーバの情報が表示され、画面の下半分で操作を行います。

交換後

装置交換は未実施

下記の装置情報に置き換える

機器名	機種名	シリアル番号	BM

下記の新規検出装置と交換する

機器名	機種名	シリアル番号	BM

4. 交換後の装置を選択します。

装置の状態に応じて、以下aからcのいずれかが自動選択されています。

a. [装置交換は未実施]

登録されている機器情報と一致するサーバが存在している場合に選択されます。サーバ内の一部の部品を交換した場合などが対象になります。

b. [下記の装置情報に置き換える]

登録されている機器情報と一部情報が異なるサーバが存在している場合に選択されます。サーバ内の一部の部品 (システムボードなど) を交換した場合などが対象になります。

c. [下記の新規検出装置と交換する]

登録されている機器情報と一致するサーバが存在しない場合に選択されます。サーバ全体を別のサーバに交換した場合などが対象になります。

① 情報

実際の保守作業と、上記aからcの選択が異なる場合は、保守後の機器が正しく動作しているか、またネットワークに正しく接続されているかなどをチェックしてください。

5. 手順4でcが選択されている場合は、交換後のサーバを一覧から選択します。

iRMCのIPアドレスを固定IPに設定済みの場合は [手動検索] ボタンでサーバを検出します。

なお、手順4でaまたはbが選択されている場合は、この手順は不要です。次の手順に進んでください。

① 情報

- 異なるモデルのサーバと交換した場合は本操作で交換後のサーバを指定できません。サーバを登録解除したあと、サーバを新規に機器登録してプロファイルを適用します。
- サーバブレードの場合は、交換後のブレードが異なるスロットや異なるシャーシに搭載すると交換

として扱われないため、保守後操作は実行できません。新規にサーバを登録するか、元の位置に搭載しなおしてください。

6. プロファイル再適用の範囲を指定します。

FW、BIOS、BMCまたはOSの中から再適用が必要な項目をチェックし、不要な項目のチェックを外します。

- FW：ファームウェア／BIOSのアップデートを再実行する。
- BIOS：BIOSタブに記述されている設定を装置へ再適用する。
- BMC：BMC（iRMC）タブに記述されている設定を装置へ再適用する。
- OS：OSプロファイルの内容に従い、再インストールする。

① 情報

適用中のプロファイルに設定がない項目はチェックできません。

事象別の再適用範囲の例は次のとおりです。構成や状況に応じて適切な処理を行ってください。

実施した保守操作	プロファイル再適用指示
故障したサーバを撤去し、新しいサーバと交換、内蔵ディスクは引き継ぎ	FW、BIOS、BMCを再適用する。
サーバ内のシステムボードを交換	FW、BIOS、BMCを再適用する。
サーバ内の各種部品（CPU、DIMM、PCIカード類）を交換	プロファイル再適用は不要。
アレイ構成の場合に、ディスクドライブを1台だけ交換	プロファイル再適用は不要。
アレイ構成でない場合に、ディスクドライブを交換	OSを再適用する。

7. [実行] ボタンをクリックします。

プロファイルの再適用処理が開始します。サーバの状態はプロファイル適用中となります。

8. [最新の情報に更新] ボタンをクリックし、処理が完了するのを待ちます。

4.10 機器のグループ管理

登録された機器はグループ別に分けて管理できます。業務用途別や導入時期別などの任意のグループを作成して機器を所属させておくことで、管理が容易になります。

① 情報

グループを利用した機器表示はノードリスト（種別）画面で利用できます。ノードリスト（収容位置別）画面ではグループごとの表示はできません。

4.10.1 グループの作成

任意の名称のグループを作成します。

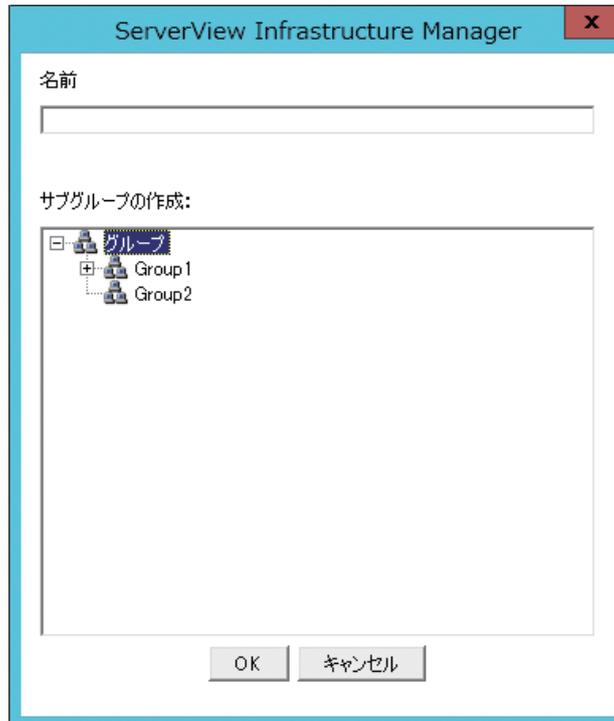
① 情報

グループの下にさらに別のグループというように、グループは階層的に作成することもできます。この場合は同一のグループ名を複数作成できます。同一階層内には同一名のグループは作成できません。

グループ名を作成する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーで [グループ] を右クリックまたは既存のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [新しいグループ] を実行します。

グループ作成のダイアログボックスが表示されます。



2. 名前欄に作成するグループの名前を入力します。
3. ダイアログボックス中央部の [サブグループの作成] 欄でグループの作成先が正しく選択されていることを確認します。
4. [OK] ボタンをクリックします。

グループが作成されます。

4.10.2 グループへの機器登録

作成したグループに機器を登録します。

① 情報

1台の機器を複数のグループに所属させることも可能です。

グループに機器を登録する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーでグループに登録する機器名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー] を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

2. グループのツリーで登録先グループをクリックし、選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
機器がグループに登録されます。

4.10.3 所属グループの移動

すでにグループに所属している機器を別のグループに移動します。
機器を別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーで移動元のグループの配下を展開します。
2. 移動させる機器名を右クリックし、表示されるメニューで[グループへ移動]を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
3. グループのツリーで移動先グループをクリックし、選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
機器が選択したグループに移動します。

4.10.4 グループからの削除

すでにグループに所属している機器をグループから削除します。機器自体は削除されません。
機器をグループから削除する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーで所属先のグループの配下を展開します。
2. 削除する機器名を右クリックし、表示されるメニューで[グループから削除]を実行します。
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックします。
グループから機器が削除されます。

4.10.5 グループ名の変更

既存グループの名称を変更します。
グループ名を変更する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーで対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[グループをリネーム]を実行します。
新しいグループ名を入力するダイアログボックスが表示されます。
2. グループ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
グループ名が変更されます。

4.10.6 グループへ移動

既存グループを別のグループ階層下に移動します。移動対象のグループ配下に所属している機器やグループも移動します。

情報

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下の機器は1個のグループに統合されます。

別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーで移動対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[グルー

プへ移動] を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループに移動します。

① 情報

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

4.10.7 グループへコピー

既存グループを残したまま、別のグループ階層下に同じグループを作成します。

① 情報

コピー先に同一グループ名が存在する場合は、コピー元のグループとその配下の機器は1個のグループに統合されます。

別のグループにコピーする手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーでコピー対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループにコピーされます。

① 情報

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

4.10.8 グループを削除

任意の作成済みグループを削除します。

① 情報

グループを削除する場合は、グループに登録されている機器や下位階層のグループも削除されます。

作成済みグループを削除する手順は次のとおりです。

1. ノードリスト画面のツリーで削除対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループを削除] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. 削除するグループが正しいことを確認したあと [はい] ボタンをクリックします。
選択したグループが削除されます。

4.11 プロファイルのグループ管理

保存したHWプロファイル、OSプロファイルはグループ別に管理できます。業務用途別や導入時期別などの任意のグループを作成してプロファイルを所属させておくことで、管理が容易になります。

① 情報

グループ内ではHWプロファイルおよびOSプロファイルが混在して存在します。種類別に分けて管理する場合は、グループ配下に「HW」または「OS」のようにさらに別のグループを作成してください。

4.11.1 グループの作成

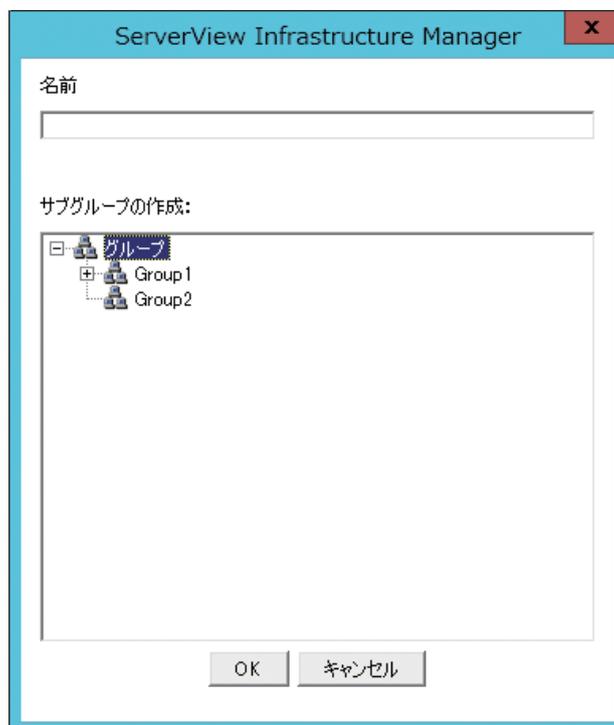
任意の名称のグループを作成します。

① 情報

グループの下にさらに別のグループというように、グループは階層的に作成することもできます。この場合は同一のグループ名を複数作成できます。同一階層内には同一名のグループを作成できません。

グループを作成する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーでグループを右クリックして表示されるメニューで [新しいグループ] を実行、または既存のグループ名を右クリックして表示されるメニューで [新しいグループ] を実行します。
グループ作成のダイアログボックスが表示されます。



2. 名前欄に作成するグループの名前を入力します。
3. ダイアログボックス中央部の [サブグループの作成] 欄でグループの作成先が正しく選択されていることを確認します。

4. [OK] ボタンをクリックします。
グループが作成されます。

4.11.2 グループへのプロファイル登録

作成したグループにプロファイルを登録します。

① 情報

- グループに登録したあともプロファイルは元の場所に存在します。グループ配下に別のプロファイルが作成されるわけではなく、両者は同一のプロファイルです。
- 1つのプロファイルを複数のグループに所属させることもできます。

グループにプロファイルを登録する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーでグループに登録するプロファイル名を右クリックし、表示されるメニューで[グループへコピー]を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで登録先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
プロファイルがグループに登録されます。

4.11.3 所属グループの移動

すでにグループに所属しているプロファイルを別のグループに移動します。
プロファイルを別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーで移動元のグループの配下を展開します。
2. 移動するプロファイル名を右クリックし、表示されるメニューで[グループへ移動]を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
3. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
プロファイルが選択したグループに移動します。

4.11.4 グループからの削除

すでにグループに所属しているプロファイルをグループから削除します。プロファイル自体は削除されません。
プロファイルをグループから削除する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーで所属先のグループの配下を展開します。
2. 削除するプロファイル名を右クリックし、表示されるメニューで[グループから削除]を実行します。
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックします。
グループからプロファイルが削除されます。

4.11.5 グループ名の変更

既存グループの名称を変更します。

グループ名を変更する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーで対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループをリネーム] を実行します。

新しいグループ名を入力するダイアログボックスが表示されます。

2. グループ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

グループ名が変更されます。

4.11.6 グループへ移動

既存グループを別のグループ階層下に移動します。移動対象のグループ配下に所属しているプロファイルやグループも移動します。

① 情報

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下のプロファイルは1個のグループに統合されます。

別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーで移動対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ移動] を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。

グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループに移動します。

① 情報

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

4.11.7 グループへコピー

既存グループを残したまま、別のグループ階層下に同じグループを作成します。

① 情報

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下の機器は1個のグループに統合されます。

別のグループにコピーする手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーでコピー対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー] を実行します。

ダイアログボックスが表示されます。

2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。

グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループにコピーされます。

① 情報

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

4.11.8 グループを削除

任意の作成済みグループを削除します。

① 情報

グループを削除する場合は、グループに登録されている機器や下位階層のグループも削除されます。

作成済みグループを削除する手順は次のとおりです。

1. プロファイルツリーで削除対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループを削除] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. 削除するグループが正しいことを確認したあと [はい] ボタンをクリックします。
選択したグループが削除されます。

① 情報

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

4.12 イベント履歴表示

プロファイル管理上で実行した操作およびその動作結果を、イベント履歴としてログ形式で参照できます。イベント履歴画面を表示すると、操作内容が時刻順に表示されます。本画面でプロファイル適用の完了を待つような場合は、適宜 [最新の状態に更新] ボタンをクリックして、イベント表示を更新してください。

① 情報

本画面では最新のイベントから最大500件を表示します。

4.13 設定

ここでは、プロファイル管理機能を利用するさいに必要な設定を説明します。

4.13.1 DHCP設定

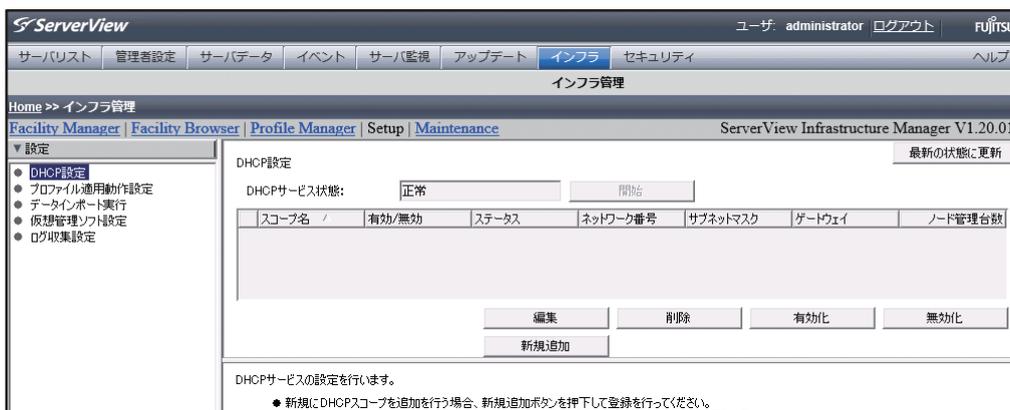
各管理機器が使用するIPアドレスを事前に用途別に範囲指定しておきます。範囲の定義などの詳細は、「[第3章 事前準備](#)」または「[3.1 ネットワーク設計](#)」を参照してください。

① 情報

管理サーバ上でDHCPサービスを利用しない場合は本設定は行いません。

DHCPを設定する手順は次のとおりです。

1. セットアップ画面の左側で [DHCP設定] をクリックします。
2. 画面の右側で、次の操作を行います。
 - 新規設定または追加設定：[新規追加]ボタンをクリック
 - 既存スコープを変更：変更対象をチェックし、[編集] ボタンをクリック
 - 既存スコープを削除：変更対象をチェックし、[削除] ボタンをクリック
 - 既存スコープの有効化／無効化：操作対象のスコープをチェックし、[有効化] または [無効化] をクリック



■ スコープの新規作成／追加手順詳細

1. 画面右側の [新規追加] ボタンをクリックします。
2. 画面下部にスコープ名、貸出しIPアドレス範囲などを入力します。

① 情報

スコープ名はDHCPサービスの管理のために使用される名称です。プロファイル管理機能では利用しません。

3. 各項目を入力し、[確定] ボタンをクリックします。
追加の設定項目が表示されます。
4. 必要な項目を入力し、[登録] ボタンをクリックします。
画面上部に登録したスコープが表示されます。

スコープ名:	Scope1	
サブネットマスク:	255.255.255.0	
貸出IPアドレス範囲:	192 . 168 . 1 . 240	~ 192 . 168 . 1 . 249
<input type="button" value="確定"/> <input type="button" value="解除"/>		
ネットワーク番号:	192.168.1.0	
ゲートウェイ:	192 . 168 . 1 . 1	
BMC(iRMC)固定IPアドレス範囲:	192 . 168 . 1 . 2	~ 192 . 168 . 1 . 100
サーバ管理LAN固定IPアドレス範囲:	192 . 168 . 1 . 101	~ 192 . 168 . 1 . 199
システム管理IPアドレス範囲:	192 . 168 . 1 . 230	~ 192 . 168 . 1 . 239
DNSサーバ:		
DNSドメイン名:		
<input type="button" value="登録"/>		

- 追加したスコープをチェックし、[有効化] ボタンをクリックします。
- 複数のサブネット（スコープ）を利用する場合、手順2から手順5を繰り返します。

① 情報

- DNSサーバとDNSドメイン名の指定は任意、その他の項目は必須となります。
- スコープの新規作成／追加は、手動検出およびノード登録／解除の各処理が実行中でない場合に行うことができます。処理中の場合は完了を待ってから行ってください。
- スコープの追加または編集のさい、[貸出IPアドレス範囲] および [システム管理IPアドレス範囲] のIPアドレスの範囲に、すでに [管理可能] [管理中] となっている機器が存在する場合、設定が行えません。

該当する機器を削除するか [貸出IPアドレス範囲] および [システム管理IPアドレス範囲] の設定を確認してください。

■ 既存スコープの編集／削除／無効化時の注意

スコープの編集／削除／無効化は、以下の処理が実行中でない場合に行うことができます。

- 自動検出 (*1)
- 手動検出
- ノード登録／解除
- プロファイル適用

処理中の場合は完了を待ってから、スコープの操作を行ってください。

*1: ここでの自動検出とは、ISMが新しい機器を発見した場合に、管理対象機器かどうかを確認する処理を指します。自動検出は画面操作とは関係なく、バックグラウンドで定期的に行われています。ネットワークに新しい機器を接続した直後は、自動検出中のためにスコープの操作がエラーになる場合があります。この場合は30秒ほど待ってから再度操作してください。

4.13.2 プロファイル適用動作設定

対象サーバに対するプロファイル適用中は、管理サーバ上に用意した共有フォルダを利用して必要なデータの送受信が行われます。

また、このフォルダには各種DVDからインポートしたデータも格納されます。本フォルダをリポジトリと呼びます。

ここでは共有フォルダのパス名やアクセス方法を設定します。

① 情報

- 共有フォルダとアクセス用のアカウントは事前に作成しておいてください。詳細は、「[3.4 プロファイル適用動作設定](#)」を参照してください。
- リポジトリにはファームウェアデータやOSインストールに必要なファイルなど多くのファイルがコピーされるため、使用量が20 GB以上になることがあります。空き容量に注意してフォルダを作成してください。
- リポジトリには多数のフォルダが階層的に作成されます。Windowsのフォルダ名の長さ制限を超えないようにするため、リポジトリパスはなるべく短く設定してください（最大30文字程度を推奨）。

プロファイル適用中の動作を設定する手順は次のとおりです。

1. セットアップ画面の左側で [プロファイル適用動作設定] をクリックします。
2. 画面右側で各設定項目を入力します。

項目名	意味
管理サーバIPアドレス	ISMが動作しているサーバに割り当てられている管理ネットワーク上のIPアドレスを指定する。管理サーバのネットワークポートが1つの場合はデフォルトで入力されているIPアドレスを使用できるが、ネットワークポートが複数存在する場合は正しいIPアドレスであるか確認する。
リポジトリパス	管理サーバ上に作成した共有フォルダのパス名を指定する。全角文字（日本語など）は使用できない。 例: "C:\ismshare" デフォルトで上記フォルダ名が入力されているが、ISMインストール時には本フォルダの作成は行われていない。
リポジトリ共有名	対象サーバからリポジトリにアクセスするさいに使用する共有名を指定する。 例: "ismshare" デフォルトで上記共有名が入力されていますが、ISMインストール時には共有設定は行われていない。
アクセスアカウントユーザ名	対象サーバから共有フォルダへアクセスするさいに使用されるアカウント名を入力する。管理サーバ上で作成したユーザー名になる。
アクセスアカウントパスワード	対象サーバから共有フォルダへアクセスするさいに使用されるパスワードを入力する。管理サーバ上で作成したユーザーのパスワードになる。
httpポート	httpを利用してBIOS設定およびBMC設定を行う場合に使用するポート番号を入力する。 通常は「80」。 httpsを利用する場合は、何も入力しない。
httpsポート	httpsを利用してBIOS設定およびBMC設定を行う場合に使用するポート番号を入力する。 通常は「443」。 httpを利用する場合は、何も入力しない。

3. [登録] ボタンをクリックします。
4. 引き続きDVDからのインポートを行います。
詳細は、「[4.13.3 各種DVDのデータインポート](#)」を参照してください。

① 情報

- すでにインポートが完了したあとでプロファイル適用動作設定を変更した場合も、インポート操作が必要になります。
すでにインポートが完了した状態から、共有フォルダ名（リポジトリパス）を変更した場合は、すべてのインポート作業を行ってください。共有フォルダ名（リポジトリパス）以外を変更した場合は、データインポート実行画面で [適用] ボタンをクリックしてください。
- プロファイル適用動作設定画面でhttp/httpsのポート番号を変更する場合は、すべての対象サーバのiRMCポート番号を変更してください。なお、iRMCのhttpポート番号を変更すると、ISMのサーバプロパティ画面からBMC（iRMC）Webを起動できなくなります。

4.13.3 各種DVDのデータインポート

次のDVDやCD（またはisoイメージ）の中身を管理サーバのハードディスク上にコピーします。ServerView Suite DVD (Tools)およびアップデートDVDは、必ずインポートを行います。OSのインストールDVDについては利用するOSのみインポートが必要です。

DVD種類	備考
ServerView Suite DVD (Tools)	必ずインポートが必要。 サポート版数はV11.13.10以降。対象サーバおよびインストールするOSをサポートした版数が必要。
Update DVD	必ずインポートが必要。 最新ファームウェアやBIOSにアップデートする場合は、それらを含むDVDから再度インポートが必要。 サポート版数はV11.13.10以降。
Windows Server 2012/R2インストールメディア	Windows Server 2012/R2をインストールする場合にインポートが必要。 富士通から提供されているPRIMERGY向けインストールメディア（イメージ）を使用する。
VMware ESXi インストールメディア	VMware ESXiをインストールする場合にインポートが必要。 富士通から提供されているPRIMERGY向けインストールメディア（イメージ）を使用する。
Cloud Ready Blocks Update Supplement	メンテナンス支援機能で使用する。
FC Switchblade Firmware DVD	メンテナンス支援機能で使用する。

各種DVDのデータをインポートする手順は次のとおりです。

1. プロファイル適用動作設定を完了していない場合は、最初に設定を行います。
詳細は、「[4.13.2 プロファイル適用動作設定](#)」を参照してください。
2. セットアップ画面の左側で [データインポート実行] をクリックします。



3. コピー元になるDVDを管理サーバ上のドライブにセットする、またはisoイメージをマウントしてドライブに割り当てます。

① 情報

- リモート接続されたWebブラウザでプロファイル管理を操作している場合、コピー元ドライブは接続先の管理サーバ側に存在する必要があります。
- ServerView Suite DVD (Tools) をセットします。

4. 画面右側の [インポート元ドライブ] 欄をクリックし、ドライブ名を選択します。
ドライブ名が表示されない場合は、[最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。
5. [種類] 欄をクリックし、インポートするDVDの種類を選択します。
6. [インポート開始] ボタンをクリックします。
インポートを開始します。
7. [最新の状態に更新] ボタンをクリックし、ログ表示欄でコピーが完了するのを待ちます。
8. 複数のDVDからコピーする場合は、手順2から手順7を繰り返します。
ServerView Suite DVD (Tools)とUpdate DVDのインポートは必須です。
9. 最後に [適用] ボタンをクリックします。
10. 確認のダイアログボックスが表示されたら、[はい] ボタンをクリックします。
適用が開始されます。正常終了すると作業は完了です。

① 情報

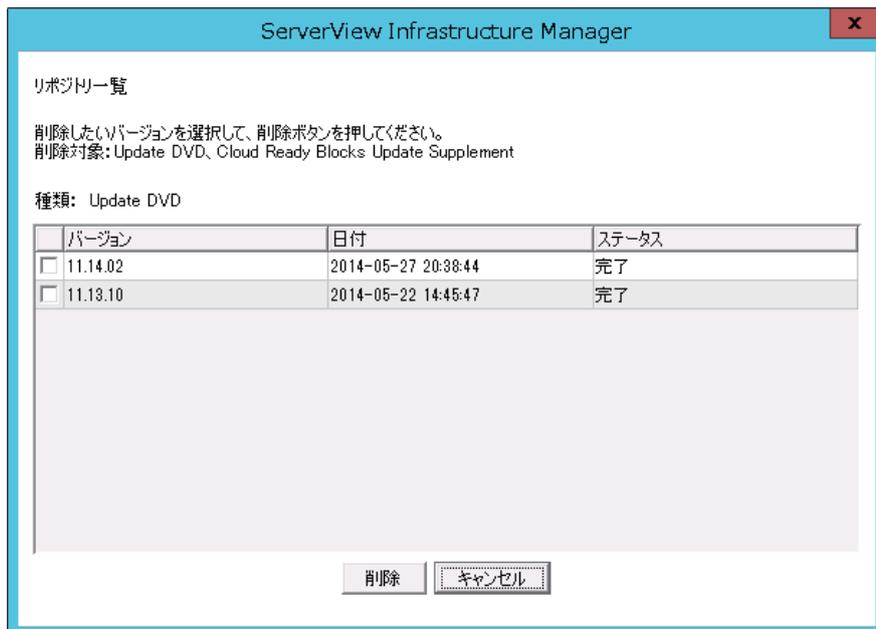
- 適用開始から完了までは数分かかります。
- 適用中は共有フォルダ (リポジトリ) に対して、一時的にネットワークドライブが割り当てられます。

■ インポート済みデータの削除

Update DVDおよびCloud Ready Blocks Update Supplementについては、既にインポート済みのバージョンと異なるバージョンのDVDをインポートすると、以前インポートしたバージョンはすべて保持されたまま、新しくインポートしたバージョンが追加されます。そのため、複数のバージョンがインポートされた状態となります。

不要になったバージョンは次の手順で削除します。

1. データインポート画面の種類選択欄で削除するDVDの種類を選択し、[リポジトリ一覧] をクリックします。
2. [リポジトリ一覧] ダイアログボックスが開き、インポートされているバージョンが一覧表示されます。



3. 削除するバージョンのチェックボックスをオンにして [削除] ボタンをクリックします。
4. [データインポート実行] 画面に戻ります。[最新の状態に更新] ボタンをクリックし、削除が正しく完了したことを画面上の作業履歴で確認します。削除が成功すると履歴のステータスに「削除済」と表示されます。

i 情報

Update DVD、Cloud Ready Blocks Update Supplement以外は複数の種類や版数を保存しておくことはできません。最後にインポートしたデータだけがリポジトリに残ります。インポートしたデータの削除はできません。

4.13.4 仮想管理ソフト設定

vCenterまたはSCVMMへのホスト登録機能を使用する場合、必要な情報を事前に設定します。仮想管理ソフトを設定する手順は次のとおりです。

1. セットアップ画面の左側で [仮想管理ソフト設定] をクリックします。

2. vCenter登録とSCVMM登録の設定を入力します。

vCenter登録とSCVMM登録でそれぞれ設定欄が分かれています。使用するソフトウェアに対応した設定を行います。両方を設定することもできます。

vCenterの設定

項目名	意味
登録する	本設定のチェックボックスをオンにすると、vCenterのホスト登録に関する設定が登録できる。
IPアドレス	vCenterがインストールされているサーバのIPアドレスを入力する。
管理者ユーザ名	vCenterへログインするさいのユーザー名を入力する。
管理者パスワード	vCenterへログインするさいのパスワードを入力する。
リソース登録先フォルダ名	ホスト登録先のフォルダ名またはクラスタ名を入力する。Profile Managerでは、日本語など（全角文字）を含む名称を指定できない。フォルダが階層的に作成されている場合、最下層のフォルダ名を指定する。同一名称のフォルダが、ほかに存在する場合は意図した場所へ登録されない場合がある。
httpsポート番号	ホスト登録処理中、httpsを利用して通信を行う。このとき利用するポート番号を入力する。通常は443となる。
OSインストール後にホストを自動登録	本設定のチェックボックスをオンにすると、OSプロファイルによるVMwareインストールが完了したあと、続けてvCenterに登録される。

SCVMMの設定

項目名	意味
登録する	本設定のチェックボックスをオンにすると、SCVMMのホスト登録に関する設定が登録できる。
IPアドレス	SCVMMがインストールされているサーバのIPアドレスを入力する。
SCVMMログインユーザ名	SCVMMへログインするさいのドメイン名とユーザー名を入力する。
SCVMMログインパスワード	SCVMMへログインするさいのパスワードを入力する。

SCVMMの設定 (続き)

項目名	意味
リソース登録先フォルダ名	ホスト登録先のフォルダ名を入力する。
ドメイン管理者 ユーザ名	登録するサーバに対する管理者権限を持つアカウントのドメイン名とユーザー名を入力する。
ドメイン管理者 パスワード	登録するサーバに対する管理者権限を持つアカウントのパスワードを入力する。
PowerShellスクリプト作成先フォルダ	ホスト登録処理はPowerShellスクリプトを利用して行う。このとき利用するフォルダ名を入力する。通常は変更する必要はない。

3. 必要な設定を入力したあと、vCenterとSCVMMそれぞれの入力欄下の [通信テスト] ボタンをクリックします。

入力した内容で正しく動作できるかのチェックが行われます。問題が発生した場合は、入力した設定や対象ソフトウェアの動作状態などを確認してください。
4. チェックが正常に終了したら、[登録] ボタンをクリックします。

第5章 補足情報

ここでは、プロファイル管理機能を利用するうえで留意していただきたい内容を説明します。

5.1 プロファイル操作に関して

プロファイルを利用する場合の留意事項は次のとおりです。

- プロファイル適用状態の機器に対して、プロファイル管理機能を使用せずに直接ハードウェアやOSの設定を変更した場合は、その変更を検知できません。このため、プロファイル内容と機器状態には差異が生じます。
- プロファイル適用済み機器に対して別のプロファイルを適用する場合は、新旧プロファイル間に差分がある部分のみ設定が適用されます。差分の有無はカテゴリごとに判断されます。カテゴリはFWアップ、BIOS、iRMC、OSの4種に分けられます。

例えば、新旧プロファイルでBIOS設定が完全に同一の場合はBIOS設定の更新は行われません。新旧プロファイルでiRMC設定が1項目でも変更されていた場合は、すべてのiRMC設定の更新が行われます。同一設定の場合でも更新を行いたい場合は、機器プロパティ画面でプロファイル名を指定するさいに、[適用項目]のチェックボックスにチェックを入れます。

- HWプロファイルとOSプロファイルは独立して管理されますが、対象サーバへの適用に関しては次のルールがあります。
 - HWプロファイルとOSプロファイルを同時に適用できる
 - HWプロファイルとOSプロファイルは個別に変更できる
 - 最初にHWプロファイルのみ適用し、あとからOSプロファイルを適用できる
 - HWプロファイルが適用されていない状態で、OSプロファイルのみの適用はできない

5.2 登録済み機器情報の変更に関して

登録済み機器情報の変更を説明します。

5.2.1 HWプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更

機器へ適用済みのプロファイルをそのまま編集することはできません。

機器へ適用済みのプロファイルを流用作成し、別のプロファイルとして保存して機器へ適用します。

変更するパラメータのみを有効にしたプロファイルを適用しても、機器の設定は同じ結果になりますが、過去に適用したすべての設定が最新プロファイルに記述されなくなるため、適用済みプロファイルを流用作成することを推奨します。

情報

ETERNUSに対しては、プロファイルの上書き適用はできません。一度プロファイルを取り外したあとで

再度適用してください。また、プロファイル取り外しではRAID構成を消去できないので、必要に応じてRAID構成の削除が必要です。

5.2.2 OSプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更

OSプロファイルの適用時には、必ずインストール先ドライブのデータが消去されます。インストール済みOSの構成を残したまま設定だけを変更することには対応していません。OSの言語設定やIPアドレスなどプロファイルに記述したパラメータを変更する場合、ディスク内のデータが消失しても構わないときは、OSプロファイルを流用作成するか新規作成して適用（変更）できます。インストール済みのOS環境をそのまま利用する場合は、OS上で直接変更してください。

5.2.3 機器名の変更

機器名を変更することはできません。変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあと、再度別名で登録してください。

5.2.4 iRMC固定IPアドレスの変更

iRMCマネジメントLANのIPアドレスを変更することはできません。変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあと、再度新しいIPアドレスで登録してください。

5.2.5 位置情報の変更

登録した搭載位置情報をプロファイル管理から変更することはできません。変更が必要な場合は、ファシリティ管理から行ってください。

5.2.6 コミュニティ名の変更

MMBやETERNUSの手動検出時に指定したコミュニティ名を機器登録後に変更すると、正しい動作ができなくなることがあります。コミュニティ名の変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあとに変更し、再度登録してください。

5.3 リポジトリフォルダの変更

ここでは、ディスク容量の不足などにより、リポジトリとして使用するドライブやフォルダを変更する場合の操作手順を説明します。

1. ISMで何らかの処理が行われている場合は、処理の終了を待ちます。

例えば、以下の処理が対象となります。

- OSプロファイル、HWプロファイルの適用または取外し
- メンテナンス支援機能によるファームウェアのアップデート
- DVDのインポートやその適用処理

① 情報

念のため、処理終了を確認したあとは、ISM関連サービスを停止させておくことを推奨します。

2. リポジトリ移動先のフォルダを作成し、旧リポジトリの中のファイルをすべてコピーします。

① 情報

リポジトリフォルダ変更後に必要なDVDを再度インポートする場合、コピーは不要です。

ただし、変更前後でインポートの内容に相違がある場合には、[データインポート実行] 画面および[リポジトリ一覧] 画面の表示とリポジトリの内容に不整合が生じます。

3. ISM関連サービスを停止させていた場合は、サービスを開始させます。
4. 旧リポジトリの共有設定を解除し、新リポジトリに対してファイル共有設定を行います。
5. Setupメニューから[プロファイル適用動作設定]を起動し、設定を変更します。
6. Setupメニューから[データインポート実行]を起動し、[適用]を実施します。

付録 A サーバ用HWプロファイルの設定項目

HWプロファイル中で設定可能な項目を記載します。サーバ種類によって一部設定できない項目や設定内容が異なる項目があります。対象サーバがサポートしている範囲で設定を行ってください。
HWプロファイル内の設定項目は、個別に有効/無効を選択できます。無効にした場合、プロファイルを適用しても、無効に設定した項目は変更されません。
各項目の詳細は、対象サーバのマニュアルを参照してください。

■ ファームウェアタブ

項目名	意味	設定値
Motherboard BIOS版数 Motherboard iRMC版数 アレイコントローラ版数	サーバのシステムボードのBIOS、iRMCファームウェアおよび、サーバに搭載されているアレイコントローラのファームウェアをアップデートするかどうかを指定する。 オンボードRAIDのEmbedded MegaRAIDは本設定対象にならない。 複数のアレイコントローラが搭載されている場合はすべてが対象になる。個別の指定はできない。	最新版を適用=アップデートを行う 注意 本設定は個別に指定できない。設定を有効にした場合は、左記すべての対象についてアップデートが行われる。

■ BIOSタブ

項目名	意味	設定値
Hyper-threading	CPUのHyper Threading Technology動作を指定する。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定は意味を持たない。	Enabled=機能を使用可能にする Disabled=機能を無効にする
Execute Disable Bit	CPUのExecute Disable Bit動作を指定する。本機能はXD (eXecute Disable) ビットまたはNX (No eXecute) ビットとも呼ばれる。	Enabled=機能を使用可能にする Disabled=機能を無効にする
Intel Virtualization Technology	CPUの仮想化支援機能の動作を指定する。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
Intel (R) VT-d	CPUのVirtualization Technology for Directed I/O機能動作を指定する。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
Power Technology	CPUの電源管理動作を設定する。	Energy Efficient=省電力に最適化された動作をする Custom=追加設定項目により詳細動作を設定する Disabled=電源管理機能を無効にする

項目名		意味	設定値
	Enhanced SpeedStep	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目。 CPUのEIST (Enhanced Intel SpeedStep Technology) 動作を指定する。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
	Turbo Mode	Enhanced SpeedStepがEnabledの場合のみ設定可能な項目。 CPUのTurbo Boost Technology動作を指定する。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定にかかわらず無効になる。	Enabled=機能を有効にする Disabled=機能を無効にする
DDR Performance		メモリモジュールは異なる速度（周波数）で動作する。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速になるほど省電力になる。使用可能なメモリ速度は、取り付けられているメモリモジュールの構成によって異なる。	Low-Voltage optimized=低電圧で可能な最も高速な設定 Energy optimized=省電力で可能な最も低速な設定 Performance optimized=最高のパフォーマンスを得るために可能な最も高速な設定
NUMA		NUMA(Non-Uniform Memory Access)機能の利用有無を指定する。 マルチプロセッサ構成でない場合は意味を持たない。 本設定はBX920 S4, BX924 S4, RX200 S8, RX300 S8, RX2520 M1のBIOS 1.3.0, iRMCファーム7.19F以降が適用された装置でのみサポートされる。それ以外の装置では本設定自体を無効化しておく必要がある。	Enabled=NUMA機能を有効にする Disabled=NUMA機能を無効にする
Onboard SAS/SATA (SCU)		オンボードSAS/SATAストレージコントローラユニット (SCU) の動作を指定する。	Enabled=SCUを有効にする Disabled=SCUを無効にする
	SAS/SATA OpROM	Onboard SAS/SATA (SCU) がEnabledの場合のみ設定可能な項目。 SAS/SATAコントローラのOption ROM動作を指定する。	Enabled=Option ROMを有効にする Disabled=Option ROMを無効にする
	SAS/SATA Driver	SAS/SATA OpROMがEnabledの場合のみ設定可能な項目。 SAS/SATAコントローラのOption ROMの種類を指定する。	LSI MegaRAID=Embedded MegaRAID用Option ROMを使用する Intel RSTe=Intel RSTe用Option ROMを使用する
Sync RTC with Mgmt. Blade (サーバブレードのみ)		Real Time Clockをマネジメントブレードと同期させるかを指定する。	Enabled=同期する Disabled=同期しない
	Adjust Date/Time	プロファイル適用時に、サーバの時刻を管理サーバの時刻を基準にして変更する。Sync RTC with Mgmt BladeがDisabledの場合のみ設定可能。	Local Time=管理サーバのタイムゾーン設定に応じた時刻を指定する UTC=管理サーバのタイムゾーン設定からUTCに変換した時刻を指定する
Launch Slot X OpROM		各PCIスロットに搭載されたオプションカードの拡張ROM実行を指定する。プロファイルでは多くのスロットに対して指定できるが、実機上に存在しないスロットに対しては設定を行わないこと。	Enabled=拡張ROMを実行する Disabled=拡張ROMを実行しない

■ BMC (iRMC) タブ

項目名	意味	設定値
POSTエラー時の動作	サーバ起動時にエラーが発生した場合の対応動作を設定する。	起動継続＝エラーが発生しても、起動処理を続ける 起動停止＝エラーが発生すると、キー入力があるまで起動を停止する
電源復旧時動作設定	AC電源入力が切断されたあと、電源復旧したさいの電源動作を設定する。	電源断前の状態に戻す＝電源切断発生時の状態を保持する（切断時にサーバが電源ON中だった場合は電源投入する。電源OFF中だった場合は電源投入しない）。 電源投入しない＝常に電源OFFになる 電源投入する＝常に電源ONになる
電力制御	サーバの省電力動作や静音動作に関する設定を行う。 注意 BIOS設定で、Enhanced SpeedStepを無効に設定した場合、本制御も無効になる。	OSによるコントロール＝OSの制御に従う 省電力動作＝消費電力を抑えることを優先した動作となる（スケジュール）＝プロファイル管理では設定できない （電力制限）＝プロファイル管理では設定できない
ファンテストの実行 (ラックサーバのみ)	定期的なファンの診断を行うかどうかを設定する。	指定時刻に実行する＝毎日指定した時刻にテストを行う 実行しない＝ファンテストを行いません
	ファンテスト時刻	ファンテストを実行する場合に有効になる。ファンテストの開始時刻を指定する。 00:00から23:59までの時刻を入力する。
対象とする	ソフトウォッチドッグを設定するかどうかを指定する。	(チェック有り)＝設定を行う (チェック無し)＝設定を行わない
	ソフトウォッチドッグを有効にする	(チェック有り)＝通信監視を行う (チェック無し)＝通信監視を行わない
	動作	通信が行えない場合の動作を指定する。 継続稼働＝特に何も行わない リセット＝サーバの再起動を行う パワーサイクル＝一度サーバを電源OFFしたあと、電源ONを行う
	タイムアウト時間	ここで指定した時間を超えて通信がない場合に通信できないと判断する。 1～100分までの数値を指定する。

項目名		意味	設定値
対象とする		ソフトウォッチドッグを設定するかどうかを指定する。	(チェック有り) = 設定を行う (チェック無し) = 設定を行わない
	Bootウォッチドッグを有効にする	POST終了後からOS起動までの時間を監視するかどうかを指定する。	(チェック有り) = 時間監視を行う (チェック無し) = 時間監視を行わない
	動作	指定した時間内にOSが起動しない場合の動作を指定する。	継続稼働 = 特に何も行わない リセット = サーバの再起動を行う パワーサイクル = 一度サーバを電源OFFしたあと、電源ONを行う
	タイムアウト時間	ここで指定した時間を超えてOSが起動しない場合に異常と判断する。	1~100分までの数値を指定する。
BMC(iRMC)のAdminアカウント		BMC (iRMC) のAdminアカウントの設定 (有効/無効) を指定する。	有効にする 無効にする
	BMC(iRMC)のAdminパスワードを変更する	BMC (iRMC) のAdminアカウントが「有効にする」の場合のみ設定可能な項目。	(チェック有り) = 変更を行う (チェック無し) = 変更を行わない
	BMC(iRMC)のAdminパスワード	BMC (iRMC) のAdminアカウントのパスワードを指定する。	20文字以内の半角文字で入力する。記号の扱いなどについてはサーバ本体の取扱説明書を参照する。
	パスワード確認入力	BMC (iRMC) のAdminパスワードのチェック用。同じパスワードを入力する。	上欄のパスワードと同じ文字列を入力する。
対象とする		Administratorを追加作成するかどうかを指定する。	(チェック有り) = 作成を行う (チェック無し) = 作成を行わない
	BMC(iRMC)アカウント (admin権限)	Administrator権限を持つiRMCアカウントを作成するさいにアカウント名を指定する。アカウントはID=15に作成される。	16文字以内の半角文字で入力する。記号の扱いなどについてはサーバ本体の取扱説明書を参照する。
	BMC(iRMC)パスワード (admin権限)	Administrator権限を持つiRMCアカウントを作成するさいにパスワードを指定する。	20文字以内の半角文字で入力する。記号の扱いなどについてはサーバ本体の取扱説明書を参照する。
	パスワード確認入力	iRMCパスワードのチェック用。同じパスワードを入力する。	上欄のパスワードと同じ文字列を入力する。

■ プロファイル情報タブ

項目名	意味	設定値
作成日時	プロファイルを最初に保存した日時が表示される。 流用作成の場合は流用後に最初に保存した日時になる。	参照のみ
最終更新日時	プロファイルを最後に保存した日時が表示される。	参照のみ

項目名	意味	設定値
最終適用日時	プロファイルをサーバに適用した日時が表示される。複数サーバに対して複数回の適用を行った場合は最後に適用した日時が表示される。	参照のみ
最終適用ノード	プロファイル適用先サーバの機器名が表示される。複数サーバに対して適用した場合は最後に適用したサーバの機器名が表示される。	参照のみ
適用中ノード数	プロファイルを適用中のサーバの台数が表示される。適用中サーバに別のプロファイルが適用された場合やサーバの登録解除を行った場合は台数が減少する。	参照のみ
個別情報定義数 (OSプロファイルのみ)	OSプロファイル内に作成されている個別プロファイルの数が表示される。	参照のみ
状態	プロファイルの作業状態が表示される。	参照のみ
メモ	プロファイルに対する注釈などを記入する。プロファイル適用後は編集禁止となる。	半角文字、全角文字256文字まで記入可能。

付録 B サーバ用OSプロファイルの設定項目

OSプロファイル中で設定可能な項目を記載します。省略可の記載がある項目はプロファイル上で設定をしなくてもOSのインストールは可能です。省略した場合は設定されないか、OSのデフォルトの設定が適用されます。

■ Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2用プロファイル

● OSインストールタブ

項目名	意味	設定値
アレイコントローラ	OSインストール先を内蔵アレイコントローラにするか、する場合はどのアレイコントローラを使用するかを指定する。	画面表示を参照する。 選択したアレイコントローラがサーバに搭載されていない場合は、プロファイル適用がエラー終了する。
RAIDレベル	アレイコントローラを使用する場合のRAIDレベルを指定する。アレイコントローラによって利用可能なRAIDレベルが異なる。	画面から選択する。
ディスク数	RAIDを構成するディスクドライブ数を指定する。RAIDレベルによって指定可能なドライブ台数が異なる。	画面から選択する。 ここで指定した台数のドライブが搭載されていない場合は、プロファイル適用がエラー終了する。
ボリューム1		
ボリュームラベル	ボリューム名を指定する。	ボリューム名文字列を入力する。
ファイルシステム	ファイルシステムの種類を選択する。	常にNTFSとなる。
パーティションサイズ (自動/指定)	パーティションのサイズを指定する。	自動=自動的に適切なサイズでパーティションを作成する 指定=入力したサイズでパーティションを作成する
クイックフォーマット	パーティションのフォーマット時にクイックフォーマットを利用するかどうかを指定する	する=クイックフォーマットを行う しない=通常のフォーマットを行う (作業時間は長くなる)
利用形態	パーティションの用途を指定する。	常にBoot、OSとなる。
タイムゾーン	タイムゾーンを指定する。	プルダウンから選択する。
地域と言語	地域と言語を指定する。	プルダウンから選択する。
キーボード	キーボードの言語や種類を指定する。	プルダウンから選択する。
画面解像度	OSインストール直後の画面解像度を指定する。	プルダウンから選択する。 例：600×480、800×600、1024×768、1280×1024
リフレッシュレート	OSインストール直後のディスプレイのリフレッシュレートを指定する。	プルダウンから選択する。
画面の色数	OSインストール直後の画面の表示色数をビット数で指定する。	プルダウンから選択する。
SNMP		

項目名	意味	設定値
SNMPサービスをインストールする	SNMPサービスをインストールするかどうかを指定する。	チェックあり=SNMPサービスをインストールする
SNMPトラップ設定	SNMPトラップ送信時のコミュニティ名とトラップ送信先を指定する。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定を行う。 【省略可】
SNMPセキュリティ設定	受け付けるSNMPコミュニティ名とその権利を指定する。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定を行う。 【省略可】
認証トラップを送信する	未知のホストまたはコミュニティからのSNMP要求があった場合に認証トラップを送信するかどうかを指定する。	チェックあり=認証トラップを送信する チェックなし=認証トラップを送信しない
デフォルトのホストからSNMPパケットを受け取る	LocalhostからのSNMPパケットを受け付けるかどうかを指定する。	チェックあり=SNMPパケットを受け付ける チェックなし=SNMPパケットを受け付けない
SNMPパケットを受け付けるホスト名	SNMPパケットを受け付けるホスト名を指定する。	ホスト名を記載する。 【省略可】
SNMP設定エージェント	管理者の名前と物理的な位置を入力する	日本語を含む文字列が使用可能。 【省略可】
サービス	SNMPホストに関する情報を5つのオプションから指定する。	任意のサービスをチェックする。
リモートデスクトップ	リモートデスクトップの利用可否を指定する。	チェックあり=リモートデスクトップを有効にする チェックなし=リモートデスクトップを無効にする
リモートアシスタンス (インストール形態がFullの場合のみ)	リモートアシスタンスの利用可否を指定する。	許可する範囲を画面で指定する。必要に応じて招待の有効時間も指定する。
ファイアウォール設定	対象サーバをSCVMMへ登録するさいに必要となるファイアウォールの例外を作成します。 以下のアプリケーションからのアクセスが有効になります。 ・ Windows Management Instrumentation (WMI) ・ ファイルとプリンターの共有	チェックあり=例外を作成する チェックなし=例外を作成しない
追加アプリケーション		
Java Runtime Environment ServerViewエージェント ServerViewアップデート エージェント	Java Runtime Environment (JRE)、ServerViewエージェント、ServerViewアップデートエージェントをインストールするかどうかを指定する。 JREはOS種類がFullの場合のみインストールされます。	チェックあり=アプリケーションをインストールする (*1)
DSNAP	DSNAPをインストールするかどうかを指定する。	チェックあり=アプリケーションをインストールする (*1)
ソフトウェアサポートガイド	ソフトウェアサポートガイドをインストールするかどうかを指定する。	チェックあり=アプリケーションをインストールする (*1)

*1: 「地域と言語」設定で日本語を選択している場合は、アプリケーションが日本語でインストールされます。その他の場合は英語でインストールされます。

- 個別情報タブ

項目名	意味	設定値
名前	使用者の名前を入力する	名前の文字列を入力する。
組織名	使用者の組織名を入力する	組織名の文字列を入力する。
コンピュータ名	ネットワーク上で識別するための名称を入力する。	コンピュータ名文字列を入力する。
Administratorパスワード	パスワードを入力する。	パスワード文字列を入力する。
参加先	ワークグループまたはドメインのどちらに参加するかを選択する。	プルダウンから選択する。
Workgroup/Domain名	ワークグループまたはドメインの名前を指定する。	文字列を入力する。日本語には対応していない。 Workgroupの場合、アルファベットは大文字で入力する。
ドメインユーザ名	ドメインの場合、ドメインユーザ名を入力する。	文字列を入力する。
ドメインパスワード	ドメインの場合、パスワードを入力する。	文字列を入力する。
DHCP有効	管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択する。	チェックあり=DHCPを利用する チェック無し=固定IPを指定する
IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定する。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定する。	プルダウンから選択する。
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定する。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。 【省略化】
DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバのIPアドレスを指定する。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力する。 【省略可】
DNSドメイン名	DHCPを利用しない場合、ドメイン名を指定する。	ドメイン名文字列を入力する。 【省略可】

- プロファイル情報タブ

HWプロファイルのプロファイル情報タブとほぼ同一です。詳細は、「付録 A サーバ用HWプロファイルの設定項目」を参照してください。

■ VMware ESXi 5.1/VMware ESXi 5.5用プロファイル

- OSインストーラタブ

項目名	意味	設定値
アレイコントローラ	OSインストール先を内蔵アレイコントローラにするか、する場合はどのアレイコントローラを使用するかを指定する。	画面表示を参照する。 選択したアレイコントローラがサーバに搭載されていない場合は、プロファイル適用がエラー終了する。
RAIDレベル	アレイコントローラを使用する場合のRAIDレベルを指定する。 アレイコントローラによって利用可能なRAIDレベルが異なる。	画面から選択する。
ディスク数	RAIDを構成するディスクドライブ数を指定する。 RAIDレベルによって指定可能なドライブ台数が異なる。	画面から選択する。 ここで指定した台数のドライブが搭載されていない場合は、プロファイル適用がエラー終了する。
キーボード	キーボードの言語や種類を指定する。	プルダウンから選択する。
VMの標準ネットワークでセットアップ	ポートグループを利用して標準ネットワークを作成する。	チェックあり=標準ネットワークを作成する
使用するVLAN ID	VLAN IDを入力する。VLANを使用しない場合は0を入力する。	VLAN IDを入力する。
使用許諾契約書の条項に同意します	画面に表示されている使用許諾契約書の内容を確認する。	チェックあり=使用許諾契約書に同意する チェックなし=使用許諾契約書に同意しない

- 個別情報タブ

項目名	意味	設定値
rootパスワード	パスワードを入力する。	パスワード文字列を入力する。
DNSからホスト名を取得	DNSから取得したホスト名を利用するかどうかを指定する	チェックあり=DNSから取得する チェックなし=プロファイルで任意のホスト名を指定する
ホスト名	DNSからホスト名を取得しない場合に任意のホスト名を指定する。	ホスト名を入力する。
DHCP有効	管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択する。	チェックあり=DHCPを利用する チェックなし=固定IPを指定する
IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定する。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定する。	プルダウンから選択する。
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定する。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。 【省略可】
DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで指定する。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力する。 【省略可】

- プロファイル情報タブ

HWプロファイルのプロファイル情報タブとほぼ同一です。詳細は、「付録 A サーバ用HWプロファイルの設定項目」を参照してください。

付録 C ストレージ用HWプロファイルの設定項目

ETERNUS用のHWプロファイル中で設定する項目を記載します。対象とするストレージ種類によって選択可能な項目が異なる場合があります。

■ RAID構成タブ

● RAID構成

項目名	意味	設定値
RAIDレベル	構築するディスクアレイのRAIDレベルを指定する。	プルダウンから以下を選択する。 RAID1、RAID5、RAID6、RAID1+0 その他のRAIDレベルは未サポート。
ディスクインチ	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類（ドライブ外形サイズ）を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
ディスク種別	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類（インターフェース種類）を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS、NL-SAS、SSD、SED
ディスク容量	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類（ディスク容量）を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TBほか
ディスク本数	ディスクアレイに組み込むディスクドライブ台数を指定する。	プルダウンから台数を選択する。 選択したRAIDレベルに応じて選択可能な台数は異なる。

① 情報

アレイ構成に使用するディスクドライブの搭載スロット位置を指定することはできません。

● ホットスペア

項目名	意味	設定値
ディスクインチ	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（ドライブ外形サイズ）を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
ディスク種別	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（インターフェース種類）を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS、NL-SAS、SSD、SED

項目名	意味	設定値
ディスク容量	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（ディスク容量）を指定する。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TBほか
ディスク本数	作成するホットスペアディスクの台数を指定する。	プルダウンから台数を選択する。

① 情報

ホットスペア構築に使用するディスクドライブの搭載スロット位置を指定することはできません。

● プロファイル情報タブ

HWプロファイルのプロファイル情報タブとほぼ同一です。詳細は、「[付録 A サーバ用HWプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。

付録 D トラブルシューティング

プロファイル管理の操作時に期待通りに動作しない場合は、該当する事象を参照して問題を検出してください。

エラーメッセージが表示される場合は、メッセージの内容に従い適切な処置を行ってください。

■ 機器検出／登録

事象	想定原因／対処
サーバが自動検出されない	<ul style="list-style-type: none"> - [最新の状態に更新] ボタンがクリックされないと新しく検出された機器は表示されない。[最新の状態に更新] ボタンをクリックする。 - ツリー選択やチェックボックスで表示対象が絞り込まれていると目的の機器が表示されない場合がある。ツリー選択状態、絞り込みのチェックボックスを確認する。タブは [全て] または [検出] を選択する。 - 電源ケーブルが接続されているか、電源が供給されているかを確認する。 - LANケーブルがiRMC Management LANコネクタに正しく接続されているか確認する。 - ネットワーク、電源の接続直後の場合は検出されていない可能性がある。1分ほど待ってから[最新の状態に更新] ボタンをクリックする。 - 対象サーバのiRMC IPアドレス設定がDHCPになっていないと自動検出されない。DHCPに設定するか、手動検出を行う。 - DHCP設定が正しく設定されているか確認する。 - DHCPサービスが管理サーバ上で動作していることを確認する。 - DHCPで割り当てられるIPアドレスが不足していると新しく接続されたサーバは自動検出できない。DHCP設定画面でIPアドレス範囲が十分であるか確認する。また、DHCPでIPアドレスを利用中の機器が多数接続されていないか確認する。 - 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント (admin) が変更されていると検出できない。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は元に戻す。 - 対象サーバがすでに登録済みでないか確認する。 - 検出しようとするサーバがサポートされているか確認する。プロファイル管理機能の版数が古いと最新サーバに対応していない場合がある。 - 機器のモデル名やシリアル番号が正しく取得できない場合は、サポート対象機器と判断されない。対象機器上で正しい値であるか確認する。

事象	想定原因／対処
<p>手動検出で機器が検出されない (サーバ/MMB/ETERNUS共通)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - [最新の状態に更新] ボタンがクリックされないと新しく検出された機器は表示されない。[最新の状態に更新] ボタンをクリックする。 - 手動検出開始から、実際に装置が機器が検出されるまでに時間がかかる場合がある。特に検出範囲を広く指定した場合は時間を要する。1分ほど待ってから再度[最新の状態に更新] ボタンをクリックする。 - ツリー選択やチェックボックスで表示対象が絞り込まれていると目的の機器が表示されない場合がある。ツリー選択状態、絞り込みのチェックボックスを確認する。タブは[全て]または[検出]を選択する。 - 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント (admin) が変更されていると検出できない。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は元に戻す。 - 対象サーバがすでに登録済みでないか確認する。 - 検出しようとするサーバがサポートされているか確認する。プロファイル管理機能の版数が古いと最新サーバに対応していない場合がある。 - 機器のモデル名やシリアル番号が正しく取得できない場合は、サポート対象機器と判断されない。対象機器上で正しい値であるか確認する。
<p>手動検出で機器が検出されない (サーバ固有)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - サーバに電源ケーブルが接続されていて、電源が供給されていることを確認する。サーバブレードの場合はシャーシの電源をオンにする。 - iRMC LANコネクタに正しくケーブルが接続されていることを確認する。 - ケーブル接続直後やDHCPから固定IPアドレスに変えた直後は、サーバが検出可能になるまでに多少時間を要するため、1分ほど待ってから手動検出を行う。 - 対象サーバのIPアドレス設定が正しいか、ネットワークが正常に動作しているかを確認する。例えば、Webブラウザから「http:// (IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認する。 - 対象サーバのiRMC IPアドレス設定がDHCP設定になっている場合は、該当IPアドレスを指定しても手動検出されない。 - 検出しようとするサーバのIPアドレスがすでに本ソフトで登録中の別装置と重複している場合は手動検出されない。 - 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント (admin) が変更されていると検出できない。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は元に戻す。
<p>手動検出で機器が検出されない (ブレード (MMB) 固有)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - シャーシに電源が供給されていないと検出できない。電源状態を確認する。 - LANケーブルがMMBに接続されていて、MMBのIPアドレスが正しく設定されていることを確認する。例えば、Webブラウザから「http:// (IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認する。 - SNMP設定を利用して検出するため、MMBに対するSNMPコミュニティ名およびSNMP読み出し設定を行う。また手動検出時に正しいSNMPコミュニティ名を入力しておく。

事象	想定原因／対処
<p>手動検出で機器が検出されない (ストレージETERNUS固有)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ETERNUSの電源がオンになっていない場合は検出できない。電源をオンにした状態で検索を行う。 - LANケーブルがCMのMNTポートに正しく接続されていて、IPアドレスが正しく設定されていることを確認する。例えば、Webブラウザから「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認する。 - SNMP設定を利用して検出するため、ETERNUSに対するSNMPコミュニティ名およびSNMP読み出し設定を行う。また手動検出時に正しいSNMPコミュニティ名を入力しておく。 - 管理者用のデフォルトログインアカウント (root) が変更されていると検出できない。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は元に戻す。
<p>過去に検出した機器が一覧に表示されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> - OSやサービスを再起動すると、以前の検出情報は消去される。再度検出を行う。 - 自動検出されたサーバは、ネットワークの切断などにより通信できない状態が続くと検出画面から消失する。装置状態やネットワークの状態を確認する。
<p>搭載位置を指定するための登録ボタンがクリックできない</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ファシリティ管理に該当装置と位置情報がすでに登録されている場合は指定できない。ファシリティ管理上で登録を削除するか、目的の位置に変更する。
<p>搭載位置を指定するさいにラック選択のプルダウンで目的のラックが表示されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ラックの登録はファシリティ管理で行う。ファシリティ管理で登録したあとに位置指定する。
<p>搭載位置を指定するさいにラックの絵が表示されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> - サーバブレードを登録しようとしている。サーバブレードの位置情報は搭載先のシャシ情報から自動的に決定されるため、位置は指定しない。
<p>搭載先として指定すべき位置にすでに別の装置が存在している</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 選択したラック名が正しいことを確認する。 - 誤って別の装置を登録している場合はファシリティ管理で登録情報を変更する。 - 登録解除した装置の位置情報が残っている場合はファシリティ管理で登録情報を削除する。
<p>登録時に「ノード登録が成功しましたが、サーバリストの登録に失敗しました」のメッセージが表示される</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ノード登録は正常に完了したが、SVOMのサーバリストへの登録がエラーになった。サーバリストの登録状態を確認し必要に応じて修正する。 例えば、登録しようとする機器のIPアドレスが既にサーバリストに別の機器として登録済みの場合、IPアドレスが重複するためエラーになる。
<p>登録時に「指定された固定IPアドレスが機器情報に存在します」と表示される</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Facility Managerに同一機器が異なる情報で登録されている場合は登録がエラーになる。また登録しようとする装置と同一のシリアル番号やMACアドレスが別の装置で誤って登録されていてもエラーとなる。 Facility Managerの登録内容に誤りがないか確認する。

■ プロファイル操作／適用

事象	想定原因／対処
<p>プロファイル適用の画面で目的のプロファイルがプルダウンに表示されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> - プロファイルにエラーが残った状態で保存されている。プロファイルにエラーが残っていても保存可能だが、プロファイル適用はできない。プロファイルを編集してエラーがない状態で保存する。 - 対象装置と異なるサーバ種類でプロファイルが保存されている。RXシリーズ用として作成したプロファイルはBXサーバへは適用できない。逆にBXシリーズ用プロファイルはRXサーバへは適用できない。プロファイルと装置が一致しているか確認する。
<p>プロファイル適用の画面でOSプロファイルの個別IDがプルダウンに表示されない</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 個別IDが作成されていない場合は、プロファイルを編集して個別IDを登録する。 - 個別IDは複数のサーバに割り当てることはできない。すでに目的の個別IDが他のサーバに適用済みの場合は、別の個別IDを追加作成する。
<p>プロファイル適用ボタンクリック後に「データインポート適用が正常に行われていません」と表示される</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 必要なDVDデータをインポート後に、インポート画面で [適用] を実行する。 - Profile Managerのノードリスト画面で [最新の状態に更新] ボタンをクリック後に、プロファイル適用を実行する。
<p>サーバへのHWプロファイル適用がエラーになる</p>	<ul style="list-style-type: none"> - サーバの電源がオフになっているか確認する。サーバへのプロファイル適用時は電源をオフにする。サーバブレードの場合は、シャーシへの搭載直後はインベントリブート機能により、自動的に電源がオンされたあと、しばらくして電源がオフされる。インベントリブートが完了してからプロファイルを適用する。 - サーバの電源ケーブルが接続され、電源が供給されていることを確認する。サーバブレードの場合はシャーシの電源もオンされていることを確認する。 - ネットワークが正しく動作しているか確認する。例えばiRMC Webユーザーインターフェースで対象サーバにログインできるか確認する。 - プロファイル適用動作設定が正しく行われているか確認する。リポジトリ（共有フォルダ）に対して、指定したアカウントでアクセスできることを確認する。 - データのインポートが行われているか確認する。SVS DVDおよびUpdate DVDのインポートは必須。また、リポジトリフォルダ名などを変更した場合は再度インポートが必要。データインポート実行画面で [適用] ボタンをクリックして正常に動作するか確認する。 - サーバのBIOS設定でPXEブート設定が利用可能になっているかを確認する。 - PXEサービスのインストール手順を確認し、インストール中の選択操作に誤りの可能性がある場合は、PXEサービスを再インストールしてみる。 - DHCP設定画面でスコープ設定を行う。登録したスコープが無効になっている場合は有効化する。

事象	想定原因／対処
サーバへのOSプロファイル適用がエラーになる	<ul style="list-style-type: none"> - 上欄「サーバへのHWプロファイル適用がエラーになる」の記載項目を確認する。 - データインポートで目的のOSインストールメディアからのインポートが完了していることを確認する。また、リポジトリフォルダ名などを変更した場合は再度インポートが必要。データインポート実行画面で[適用] ボタンをクリックして正常に動作するか確認する。 - プロファイル内でインストール先ディスクが正しく設定されているか確認する。また適用先サーバに指定したディスクアレイコントローラーや、指定したハードディスクの台数が正しく搭載されていることを確認する。 - アレイコントローラーやハードディスクが搭載されていても、ハードウェア故障などで正しく認識できない場合はエラーになる。アレイコントローラーのBIOSユーティリティなどを利用して状態を確認する。 - VMwareインストール後に、自動的にvCenter登録を行う設定の場合は、vCenter登録に失敗した場合にエラー終了状態になる。vCenterの状態や設定を確認したあと、vCenterへの手動登録を行う。
OSプロファイル適用後、ドメインに参加できていない	<ul style="list-style-type: none"> - OSプロファイルの個別設定の入力が正しくなくてもOSインストールが完了するとプロファイル適用は正常終了する。OS上でドメイン設定を行う。 - ドメインコントローラーの設定が正しくないなどの理由でドメインに参加できない場合でも、OSインストールが完了するとプロファイル適用は正常終了する。原因を取り除いたあと、OS上でドメイン設定を行う。
ETERNUSへのHWプロファイル適用がエラーになる	<ul style="list-style-type: none"> - 装置の電源がオンになっていることを確認する。 - ネットワークが正しく接続されていることを確認する。 - プロファイル内で指定したディスクドライブの種類と、ETERNUSに搭載されているディスクドライブの種類が一致しているか確認する。 - プロファイル内で指定したディスクドライブ台数がETERNUSで未使用状態になっているか確認する。特に一度プロファイル適用後に適用解除して、再度同一プロファイルを適用しようとした場合には、プロファイル適用解除時にアレイ構成が削除されないため、2回目にはディスク台数が不足してエラーになる可能性がある。 - 別のETERNUS管理ソフトやWeb GUIが動作していないか確認する。ほかの操作と重なっている場合はプロファイル適用がエラーになる場合があるため、終了させておく。 - デフォルトのログインアカウントまたはパスワードを変更している場合、プロファイル適用はできない。 - telnet接続を無効化している場合、プロファイルの適用はできない。
ファームウェアアップデートがエラーになる／正常終了するが期待通りにアップデートされない	<ul style="list-style-type: none"> - インポートしたUpdate DVD版数が正しいか確認する。 - 対象サーバ上でUpdate DVDを起動させて動作を確認してみる。
OSインストールがエラーになる／正しくインストールされない	<ul style="list-style-type: none"> - インポートしたServerView Suite DVDの版数が対象サーバやOSをサポートしているか確認する。 - 対象サーバ上でServerView Suite DVDを起動させて動作を確認してみる。

■ セットアップ

事象	想定原因／対処
DHCP設定が有効にならない	- 管理サーバ上でDHCPサービスが動作していることを確認する。管理サーバ以外のDHCPサーバを利用する場合はDHCP設定は行わない。
データインポート実行画面で[インポート開始]がエラーになる	- インポート元ドライブに正しいDVDがセットされていることを確認する。ServerView Suite DVDは1枚目をセットする。 - 管理サーバ上のドライブにDVDがセットされていることを確認する。プロファイル管理にリモートで接続している場合は間違えて端末側にセットしていないか確認する。 - インポート先リポジトリパスが正しく指定されているか確認する。正しくない場合はプロファイル適用動作設定で変更する。 - インポート先のディスクの空き容量が十分であるか確認する。また書き込み禁止になっていないか確認する。 - インポート元DVDで読み取り不良が発生している可能性がある。別のDVDがある場合は交換する。またはディスクの空き領域などにファイルをコピーする。
データインポート実行画面で[適用]がエラーになる	- データインポートの処理結果一覧でステータスが「完了」と表示されていることを確認する。エラーになっている場合はインポートを再実行する。 - 必要なデータがすべてインポートされていない可能性がある。ServerView Suite DVD、Update DVDのインポートは必須。 - リポジトリの共有設定、アクセス権限設定が正しいか確認する。リポジトリのフォルダを変更した場合は新しいフォルダにデータが格納されていない可能性がある。過去にインポートが完了していても、再度インポートを実行する。 - プロファイル適用動作設定で必要な項目が正しく設定されているか確認する。 - PXEサービスが動作していない場合はエラーになる。PXEをインストールするか、サービスが動作していることを確認する。
データインポート実行画面のリポジトリ一覧から「削除」を実行したさいにエラーになる。	- 削除しようとするデータをインポートした後、リポジトリフォルダを変更した。プロファイル適用動作設定画面で一時的にインポート時のフォルダに戻した後に削除を実行する。
vCenterの登録情報を入力後、[テスト]をクリックするとエラーが表示される。	- vCenterが正常に動作しているか、または設定した情報に誤りがないか確認する。入力したパラメータを使ってvCenterにログインできることを確認する。 - ポート番号が正しく設定されていること、ファイアウォールなどにより通信がブロックされていないことを確認する。
SCVMMの登録情報を入力後、[テスト]をクリックするとエラーが表示される。	- SCVMMが正常に動作しているか、または設定した情報に誤りがないか確認する。入力したパラメータを使ってSCVMMにログインできることを確認する。 - 指定したスクリプト作成先フォルダが正しく存在していることを確認する。 - Active Directoryへの参加や設定が正しく行われていることを確認する。

■ その他

事象	想定原因／対処
画面操作を行うと、「サーバとの通信に失敗しました」のメッセージが表示される。	- ServerView Infrastructure Managerサービス、またはその他のServerView関連サービスが起動していない可能性がある。サービスの状態を確認する。
画面上に意味不明の英語文字列が多数表示されて画面が正しく表示されない。	- Javaのセキュリティチェック「安全でない可能性があるコンポーネントの実行をブロックしますか。」に対してブロックするを選択すると正しく動作しない。一度Webブラウザを閉じ、ブロックしないを選択する。
プロファイルの再適用操作を行うさい、目的の操作にチェックが付けられない。	- HWプロファイルのうち、有効な設定が1つも存在していないカテゴリー（FW、BMCまたはBIOS）についてはチェックを付けることはできない。 - OSプロファイルが適用されていない状態では、OSにチェックを付けることはできない。
保守管理（ノード交換）実行時、交換後のサーバが画面に表示されない。	- 装置を接続した直後は検出できない場合がある。1分ほど待ってから再度保守管理（ノード交換）を行う。 - 交換元に指定したサーバが正しいか確認する。誤って別のサーバを指定していないか確認する。 - 交換後のサーバが正しくネットワークに接続されていることを確認する。 - 交換後のサーバに電源が供給されていることを確認する。 - 交換後にサーバのiRMCのIPアドレスがDHCPになっているか確認する。固定IPで利用する場合は手動検出を行う。
保守管理（ノード交換）実行時、交換後の装置が表示されるが、選択できない。	- 交換元に指定したサーバが正しいか確認する。 - 交換前のサーバと交換後のサーバが同一モデルであるか確認する。異なるモデルの場合は保守管理（ノード交換）はできない。

FUJITSU